



CSR Report 2013

Corporate Social Responsibility



本誌は、印刷・製本に関して以下のような配慮を行っています。

印刷に関する配慮



印刷工程において有害廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。

用紙に関する配慮



森林管理協議会 (Forest Stewardship Council) から認証を受けた適切に管理された森林からの原料を含むFSC認証紙を使用しています。

インクに関する配慮



環境負荷の少ない植物油インクを使用しています。





Contents

はじめに

- 01 はじめに
- 02 会社プロフィール
- 03 トップメッセージ
- 05 コベルコシステムのCSRの取り組みについて
- 09 お客様とともに

お客様にご満足いただくために
CS意識のワンランクアップ
お客様事例 コベルコ建機様
ナブテスコ様
セキュリティなくしてビジネスなし
品質向上活動に終わりはない
技術・スキル委員会
KTO (KOBELCO SYSTEMS Technology Outlook)
外部からの評価

- 17 ビジネスパートナー様とともに

一体となって情報セキュリティを確保する
ともにコンプライアンスを遵守し業務遂行力を高める
適正取引の推進
ビジネスパートナー様への感謝

- 19 社員とともに

人財育成の仕組み
KCP (コベルコシステム認定プロフェッション)
グローバル人財育成
社員満足度 (ES) 調査
KWC活動
全社イベント
3T推進ワーキンググループ
ワークスタイルの変革への取り組み
コベルコシステムの次代を担う新入社員たち

- 25 地域社会とともに

第17回アニメーション神戸 協賛
インターンシップの受け入れ
神戸マラソン 団体ボランティア
環境保護活動
その他の地域貢献・社会貢献
「コベルコシステムならではの社会貢献」の検討
オフィス環境の負荷低減
グリーンITソリューション

- 30 編集後記

コベルコシステムは、CSR活動を経営を支える大切な取り組みとして位置付けています。企業としての持続的健全成長を続けていくためには、お客様、パートナー様、株主、社員、行政、地域社会のステークホルダーの皆様に対して、事業活動・品質管理・風土づくり・信頼関係の構築・社会貢献活動等の継続的な改善をしていくことが重要です。そして、社内外への情報発信を行い、企業価値、社会的責任を高めるべく、業務改革を実施しなければなりません。CSR活動の実践と継続こそが、社会からの信頼をいただく最良の道筋と考えています。

本レポートは、コベルコシステムのCSR活動の取り組みについて、ステークホルダーの皆様によりわかりやすく報告することを目指し、マテリアリティ (大切に想う気持ち) を軸に報告しています。

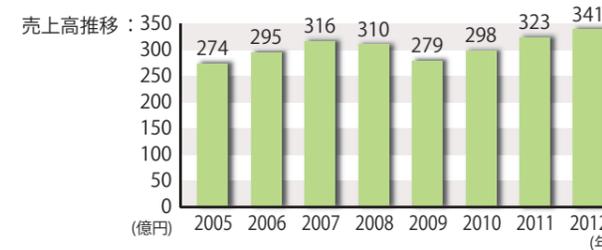
本レポートを通じて、ステークホルダーの皆様は、コベルコシステムのCSR活動への理解を深めていただくことで、「いい匂い」のするITパートナー”コベルコシステム”を感じていただければ幸いです。

報告対象期間

2012年1月1日から12月31日の一か年の活動を中心に記載しています。一部につきましては、対象期間以前からの経緯や、CSRレポート発行時直近の事項についても記載しています。

会社プロフィール

会社名称：コベルコシステム株式会社
設立：1983年10月1日
(神鋼コンピュータシステム株式会社として発足)
1987年7月1日 (コベルコシステム株式会社に商号変更)
代表者：代表取締役社長 川瀬 俊治
株主：日本アイ・ビー・エム株式会社 51%
株式会社神戸製鋼所 49%
資本金：4億円
社員数：1,067人 (2013年4月1日現在)
関連会社：コベルコソフトサービス株式会社
本社：〒657-0845
神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 (シマブンビル)
URL：http://www.kobelcosys.co.jp/
売上高：341億円 (2012年度)



事業所：



役員構成 (2013年6月)

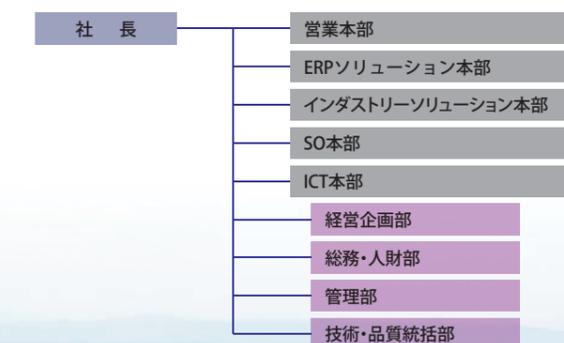
取締役 会長：氏家 啓喜	執行役員：有馬 俊一
代表取締役社長：川瀬 俊治	執行役員：時崎 充治
常務取締役：瀬川 文宏	執行役員：藤本 智史
常務取締役：青方 卓	執行役員：内野 輝男
取締役：武部 義宏	監査役 (非常勤)：平石 卓
取締役 (非常勤)：杉崎 康昭	監査役 (非常勤)：石原 明
取締役 (非常勤)：柴田 耕一朗	
取締役 (非常勤)：下野 雅承	
取締役 (非常勤)：宮下 和浩	

沿革

2012年：営業部を統合し、営業本部を設置
2011年：中堅・中小企業向けクラウドサービス「SmartCrew®」サービス開始
中国・北京で開催された「China SAPPHIRE Now」に出展
2010年：クラウドサービスセンター設立
「いい匂い」のするITソリューション」ダイヤモンド社から発刊
2009年：次世代育成支援対策推進法認定マーク (くるみん) 取得
「秘伝のタレ®」「秘伝のワザ®」を商標登録
2007年：全国企業品質賞にて大賞受賞 (栃木県経営品質協議会主催)
2006年：東京事業所を東京本社と改称
全国企業品質賞にて最優秀賞受賞
(栃木県経営品質協議会主催)
2005年：AMS®センター開設
2004年：IPセントレックス・IPコミュニケーション事業に進出
2002年：アウトソーシング事業を強化 日本IBMの資本参加
2000年：プライバシーマーク (個人情報保護) の認定取得
1999年：ASP事業の本格的な展開を開始
ISO9001 認証取得

※ AMS: Application Management Service
SAP社のERPパッケージをベースとした基幹システムの、本番稼働後の安定稼働や運用技術支援、業務の定着化を支援するサービス

組織図 (2013年6月)





Top Message トップメッセージ

コベルコシステムは2012年7月、設立25周年を迎えることができました。設立当初から一貫して“お客様とともに”、“ビジネスパートナー様とともに”、“社員とともに”、“社会とともに”という、“ともに”の精神で活動をしてまいりました。このような“ともに”の精神での活動は、関係する皆様のご理解・ご協力なくしては成り立たないものだと考えております。改めて御礼申し上げます。

ステークホルダーの皆様(お客様、社員、ビジネスパートナー様、株主、行政、地域社会)の信頼をさらに高めるために、お客様満足度向上、社員満足度向上、ワークライフバランス、コンプライアンス、品質保証、情報セキュリティなどに取り組んでいます。また、社会との調和を図るための社会貢献、環境保護などにも、積極的に取り組んでいます。

コベルコシステムは、これからも変わることなく、経営マネジメントと社員が一体となって、“ともに”の精神で活動し続けます。



変化への対応には一層のイノベーション

日本の経済は現在、エネルギー問題、デフレからの脱却、財政再建、新たな成長戦略の確立など、大きな課題を抱えています。それに加えて、為替変動やヨーロッパ・北米の好不況、新興国の成長など、ボーダレスとなったグローバル経済の影響をさらに大きく受けていくことと思われます。また、長期的な傾向として、少子高齢化の流れも見逃せません。このままの状況が続けば、2100年には人口が5,000万人を切ってしまうという予想もあり、人口減少に伴う日本市場の縮小と、製造業の地産地消への動きは、否応なしに企業のグローバル進出を後押しする大きな要因になると考えられます。

これまで日本は、製造業の輸出を中心として外貨を稼ぎながら、国内の同質文化の中で独自の発展を遂げてきました。これから日本企業が勝ち残っていくには、日本の良さを生かしながらも、グローバルスタンダードに合わせ、加えて各国に根差したローカライズで、新市場を開拓することが必須となるでしょう。また、ネット社会における消費者行動の変化、ソーシャルメディアを取り込んだマーケティング、社会インフラのスマート化など、デジタル化し、価値観が多様化する社会への対応も、今後の大きなチャレンジです。

このような環境の中で企業が成長し続けるためには、

- ① コアコンピタンスをさらに強固にすること
- ② パートナーとのコラボレーションによって新たな価値をスピーディに創造すること
- ③ 単なるモノで終わらせることなく、どのような経験価値を提供できるかを考えること

の3つが重要になってくると思います。そのために、企業には一層のイノベーションが必要となり、先進的なITの活用がその成否を分けるということがますます増えてくるでしょう。

イノベーションをもたらし成長へのチャレンジ

お客様のイノベーションを成功に導くご支援をするためには、コベルコシステム自身が常にイノベーションを起こして、ソリューション/サービスにさらに磨きをかけなければなりません。お客様から請け負ったことをやり遂げるのはもちろん、お客様をよく知り、価値観を共有することで、最適なソリューション/サービスを提供し、IT活用に関してはお客様をリードし、パートナーとして信頼される。そういう会社に変革していく必要があります。

社長方針

- ・原理原則にこだわり、正しいと思うことをやり遂げる思考と行動：PrincipleとIntegrity
- ・プロフェッショナルとして自律し、お互いを尊重する会社のカルチャー：自由闊達

社長方針として上記2つを掲げ、社員一人ひとりがプロフェッショナルとして成長するように促しています。

コベルコシステムに対するステークホルダーの皆様からの期待やニーズは大きく変わり、コベルコシステムが果たすべき社会的責任も常に変化しています。社員一人ひとりがその変化を敏感に感じ取り、同じ価値観を共有し、ベクトルを合わせて、お客様の成功に“ともに”チャレンジしていくことが重要だと考えています。

お客様と社会から必要とされる会社へ。社員がイキイキと働き、成長し、達成感を味わえる会社へ。お客様から期待され、安心して任せていただける会社へ。お客様から信頼される“真のパートナー”を目指して、コベルコシステムはこれからも常にイノベーションを行ってまいります。

2013年6月

代表取締役社長 **川瀬 俊治**

コベルコシステムの経営ビジョン

私たちコベルコシステムは、お客様と「夢」を共有し、確かな知識と卓越した技術によるITソリューション/サービスを通じて、お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。

この経営ビジョンは、2006年に若手・中堅社員代表30名が検討し、全社員が共有する理念として策定しました。

お客様の発展とチャレンジに貢献するために、お客様が「こうありたい」という夢と一緒に考え、実現し、喜んでいただくことが私たちの夢であり、使命と考えています。これまで現場の経験で培ってきた優れた品質や高度な技術、それを支える確かな業務知識やIT専門知識、そしてお客様の夢を実現するために必要な「知恵」を駆使することでお客様の期待を超えるソリューション/サービスを提供し続けたい。このような思いから、この経営ビジョンが生まれました。社員自らが作った経営ビジョンを掲げ、常にお客様の立場に立った行動、ITのプロとしてのお客様への貢献、そしてお客様と夢を共有できる会社。コベルコシステムはそのような会社を目指しています。

コベルコシステムのCSRとは

■ CSR推進活動方針

- 1 ステークホルダーに対する「大切に思う気持ち」に根ざして、CSR活動を推進する
- 2 コベルコシステムの身の丈に合った、かつ、コベルコシステムならではのCSR活動を展開する
- 3 さまざまな活動への参画を通じて、CSRに対する理解を社内に広く浸透させる

コベルコシステムでは、CSR推進活動を「経営を支える大切な取り組み」と位置付けており、経営ビジョンを実現するための活動として推進しています。

設立20周年にあたる2007年、社会的責任を果たすためのさまざまな活動を整理・体系化。2009年にはCSR推進委員会を設立し、2010年には「CSR推進活動方針」を策定しました。現在まで、コンプライアンス強化と情報セキュリティ強化をテーマとしたワーキンググループを中心に活動しています。

今後とも、ステークホルダーの皆様からの信頼をさらに向上させ、社会貢献、環境保護など「社会との調和」を図っていくCSR活動に、全社一丸となって取り組んでいきます。

中期経営計画「Growth 2014」～成長への変革～

コベルコシステムは「成長への変革」と銘打って、2012年から新たな中期経営計画「Growth 2014」を展開しています。社会環境やIT技術が急激に変化していく中において、コベルコシステムとしてお客様に新たな付加価値を提供していく5つの領域を『5つのエンジン』と名付け、事業展開を進めています。「Growth 2014」では、『5つのエンジン』を下記の領域に区分し、

それぞれのステージに見合った形で事業の形成・拡大を図っています。中期計画の初年度2012年は、おかげさまで5つのエンジンとともに順調に成長しました。2013年はさらなる成長へのステップアップの年。お客様のニーズをとらえ、さらなる価値をお届けしてまいります。

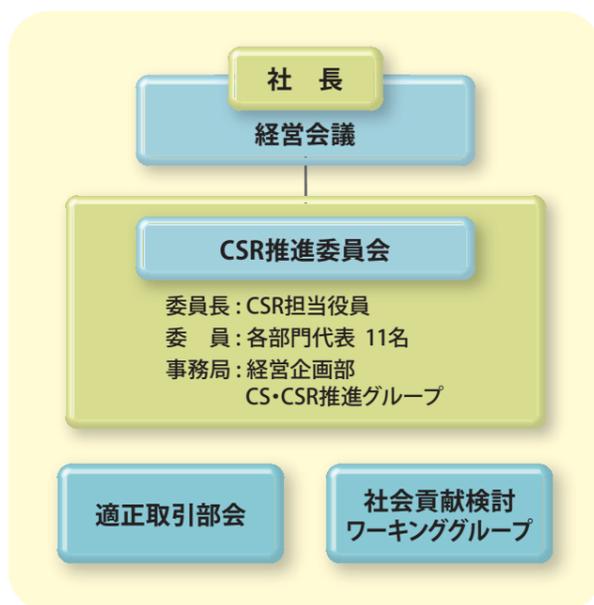


CSR活動推進体制

コベルコシステムでは、2007年(設立20周年)に以来から個別に行われていた社会的責任を果たすための活動を整備し、CSR活動として体系化しました。このCSR活動を全社で継続するために、2009年には「CSR推進委員会」を中心とした組織体制を構築し、CSRの考え方に沿った全社横断的かつ継続的な経営革新の取り組みを定着させてきました。

これらの活動を幅広くステークホルダーの皆さまにご理解いただくために、CSRレポートを2010年から発行しています。

「CSR推進委員会」は社長をオーナーとし、役員が委員長を務め、各部門から選出された「CSR委員」で構成されています。そして、「CSR推進委員会」が全社のCSR推進活動方針の立案や重点活動領域の設定、個別テーマのワーキンググループ活動、社内外へのCSR情報の開示といったコミュニケーション活動を担っています。2012年4月には、適正取引に関する活動を推進していた「適正取引推進委員会」と「CSR推進委員会」を統合し、CSR活動のコンプライアンス強化の一環として推進する体制(適正取引ワーキンググループ)に再編しました。「適正取引ワーキンググループ」は、2013年にCSR推進委員会の傘下で「適正取引部会」に改称しました。



CSR活動の軌跡



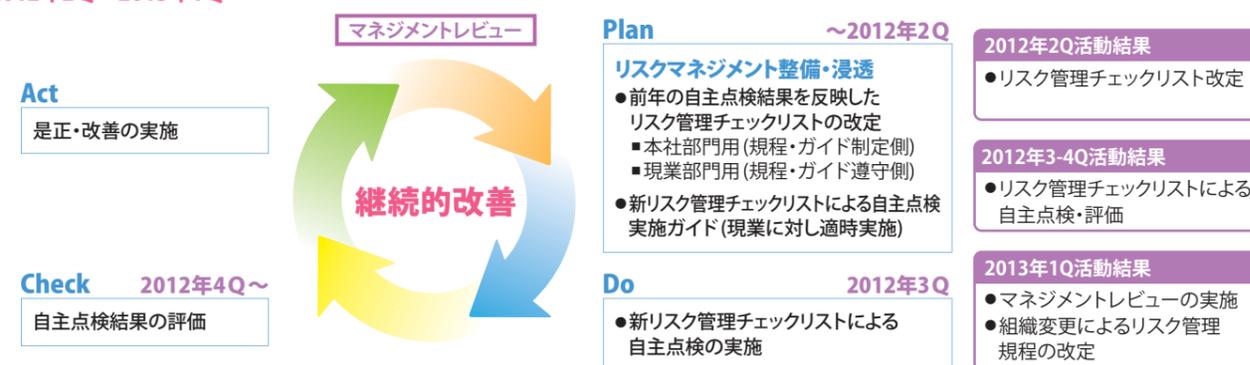
- 理想的な姿**
- 2013年**
 - 経営企画部にCS・CSR推進グループを設置
 - 適正取引ワーキンググループを適正取引部会に改称
 - 2012年**
 - CSRレポート2012発行
 - 適正取引推進委員会をCSR推進委員会に統合し、適正取引ワーキンググループとして活動
 - 新ワークスタイル変革タスク答申、新本社ビル移転プロジェクトへ提言
 - 2011年**
 - CSRレポート2011発行
 - 神戸マラソン ボランティア参加
 - 2010年**
 - CSRレポート発行
 - コベルコシステム環境保護方針を制定
 - 「森の世話人」活動開始(六甲山クリーンハイクを統合)
 - 2009年**
 - CSR推進委員会 発足
 - 2007年**
 - 従来からの社会的責任を果たすための活動を整備し、CSR活動として体系化
 - アニメーション神戸 協賛「コベルコシステム賞」制定
 - コベルコシステム環境保護イメージキャラクターを募集、「Kocoroちゃん」に決定
 - 設立20周年を契機として植樹会を開始
 - 2006年**
 - 適正取引推進委員会 発足
 - 六甲山クリーンハイク 開始
 - 2002年**
 - 経営品質向上プログラム 開始
 - CS委員会 発足

コンプライアンス推進活動について

事業活動にあたり、法令等を遵守するだけでなく、企業倫理に沿った行動をとることは、お客様に信頼される真のパートナーになるために、必ず取りまなければならないことです。コベルコシステムでは、企業倫理規程を制定し、社員一人ひとりが行動する際のガイドとしています。

さらに企業活動を取り巻く、多様化、複雑化、かつ高度化するリスクに対して、適切に対応することが求められています。このためにコベルコシステムは、コンプライアンス推進活動の一環としてリスクマネジメント活動を継続しています。当社のリスクマネジメントは、リスク管理チェックシートを用いた自主点検がその取り組みの中心となっています。自主点検結果に基づき、残留リスクへの改善策を策定し、実施するPDCAサイクルを回しています。

2012年度リスクマネジメント推進活動結果 2012年2Q～2013年1Q



国際規格とコベルコシステムのアプローチについて

企業の持続可能な発展のために、国や地域、業種・業態、企業の大小を問わず、企業とそのステークホルダーは、社会的に責任ある行動の必要性、また社会的に責任ある行動をとることによって得られるもの(社会的信用など)を重要なテーマとして強く意識するようになってきました。

これを受けて、2010年11月には、社会的責任に関する手引きとして国際規格ISO26000が発行されました。コベルコシステムでは、国際規格ISO26000を考慮に入れながらCSR活動に取り組んでいます。

7つの中核課題	コベルコシステムのアプローチ
組織統治	組織統治とは、組織がその目的を追求する上で、決定を下し、実施するときに従うシステムである。 INTEGRITY研修、企業倫理規程への同意、リスクマネジメント推進
人権	人権とは全ての人と与えられた基本的権利である。 社員の成長と働きがいの追求
労働慣行	組織の労働慣行には、組織内で行われる労働に関する全ての方針及び慣行が含まれる。 3T(楽しく、短時間、達成感)活動による適正な労働環境整備
環境	組織が行う決定及び活動は、その組織の所在地を問わず常に環境に影響を与える。 社会貢献活動の一環としての「森の世話人」活動、植樹会
公正な事業慣行	公正な事業慣行は、組織が他の組織と取引を行う上での倫理的な行動に関係する事項である。 ビジネスパートナー様との健全でWin-Winの関係
消費者問題	製品及びサービスを顧客及びその他の消費者に提供する組織は、それらの消費者及び顧客に対して責任を負う。 品質保証・情報セキュリティ、お客様の発展とチャレンジへの貢献
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	組織が自らの活動場所であるコミュニティと関係は、コミュニティの発展への貢献を目的とした参画を基礎とすべきである。 企業市民としての社会への貢献

マネジメント・経営品質

コベルコシステムでは、常にお客様満足の追求を経営の中心におき、組織プロセスを変革するという基本的な考え方に沿って活動しています。組織プロセスの変革は、『日本経営品質賞』の経営品質向上プログラムを軸にした取り組みによって、8つの視点=カテゴリーで実践し、評価しています。

経営品質向上プログラムでは、「顧客本位」、「独自能力」、「社員重視」、「社会との調和」の4つの基本理念から構成されており、これらをすべて満たすことが卓越した経営に共通した条件となっています。コベルコシステムの経営ビジョンも、これら4つの基本理念を組み入れています。

■ 4つの基本理念

顧客本位

お客様に信頼される真のパートナー
お客様ごとのニーズに応じて情報システムを構築・提供していくサービス業である

独自能力

他社との違い
5000社からなる当業界の中で、お客様に選ばれていかなければならない

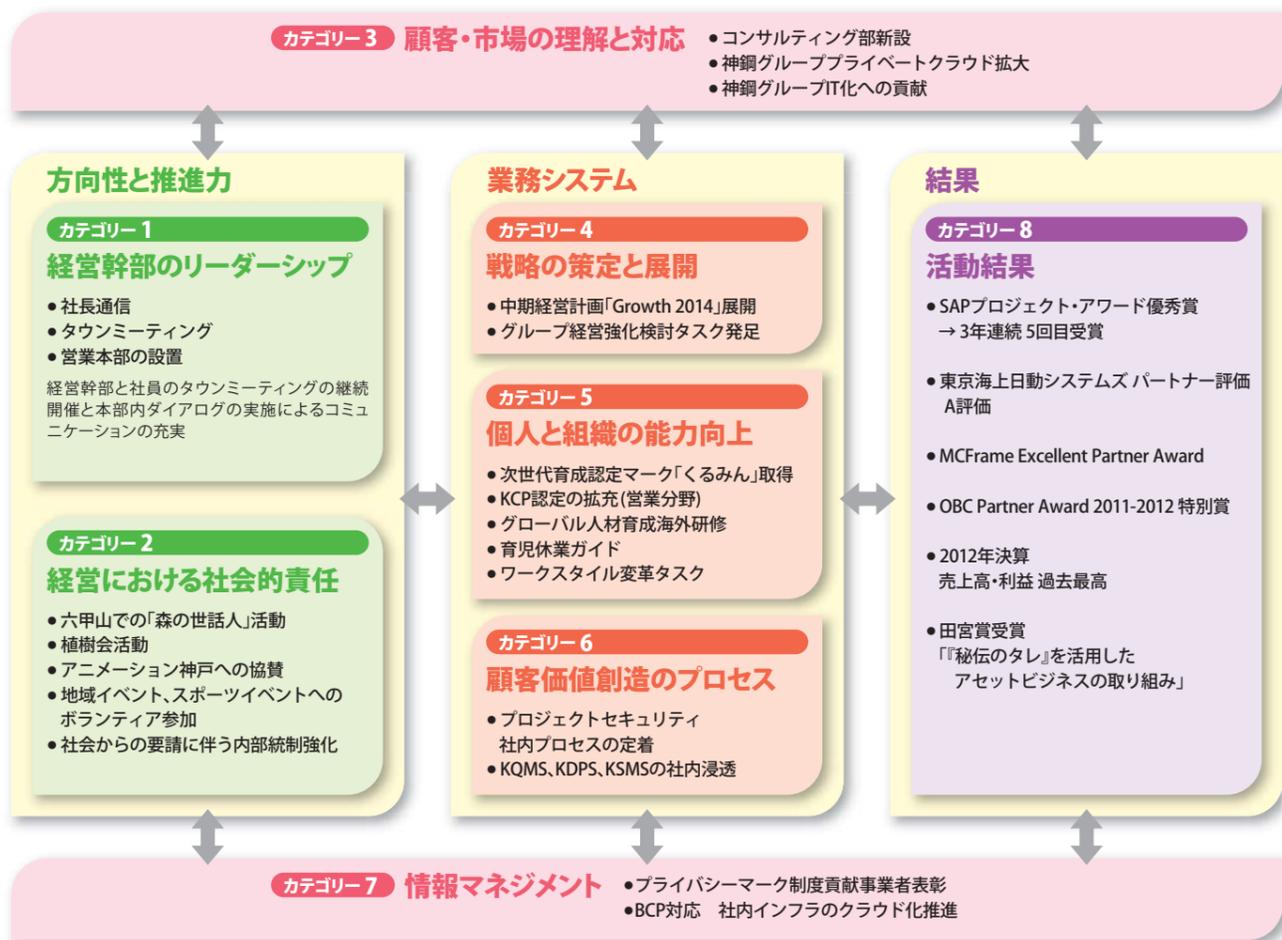
社員重視

プロフェッショナル人財
機械・設備等の資産が少なく、人財こそが事業を営んでいくために最も重要な資産である

社会との調和

企業倫理の順守と健全な成長
1987年創立で社歴はまだ浅いが、永続的かつ健全に発展していきたい

経営品質向上プログラムのフレームワークと2012年の活動成果



ステークホルダーとマテリアリティ

コベルコシステムのCSR活動では、ステークホルダーを次の6つと定義し、それぞれのステークホルダーの皆さまに対するマテリアリティ(大切に想う気持ち)を整理し、さまざまな活動に取り組んでいます。

お客様

ITソリューション/サービスを通じて
お客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

- ① お客様と夢を共有し、お客様の夢の実現に向けて事業活動を展開します
- ② ITソリューション/サービスにおける確かな知識と先進の技術を保有し、高品位なサービスの提供を継続します
- ③ お客様に信頼していただけるサービス品質を確保します

社員

社員の成長と働き甲斐が
コベルコシステムの企業発展の
原動力である

～ 3T (楽しい、短時間、達成感) 職場の実現 ～

- ① 社員一人ひとりの成長と組織の成長を支援します
- ② 社員と組織の絆を深める企業文化と職場風土をつくります
- ③ 未来の社員になる人たちから、一緒に仕事をしてみたいと思われる会社になります

行政

法令等を正しく理解・遵守し、
行政との良好な関係を保つ

- ① コンプライアンス意識を常に持ち、社会から信頼される会社になります
- ② 社会要請に幅広く応え、行政との良好な関係を保ちます



ビジネスパートナー様

ビジネスパートナー様と
健全でWin-Winの関係を
築く

- ① CSRに基づいた公正なパートナーシップを維持します
- ② 当社との協業を通じてビジネスパートナー様とともに経営基盤、経営品質の向上を目指します

地域社会

当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して、
企業市民として社会への貢献を確実に実行する

- ① IT分野を中心に、人材育成、地域産業振興等を支援します
- ② 地域での自然環境保護に自ら取り組むことにより、事業を超えた社会参画を体感します

株主

日本IBM、神戸製鋼所の
グループの一員として
企業活動を推進する

- ① 親会社の企業理念を理解し、グループブランドを大切に活動し、グループの発展に寄与します
- ② 親会社と連携してCSR活動を推進し、社会への貢献を果たします

ITソリューション/サービスを通じてお客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

- ① お客様と夢を共有し、お客様の夢の実現に向けて事業活動を展開します
- ② ITソリューション/サービスにおける確かな知識と先進の技術を保有し、高品位なサービスの提供を継続します
- ③ お客様に信頼していただけるサービス品質を確保します

お客様にご満足いただくために

おかげさまで、2012年、当社は設立25周年を迎えることができました。これもひとえに、お客様からのご愛顧の賜物と、心から感謝申し上げます。今後も、全社一丸となり、お客様の発展とチャレンジに貢献してまいります。

100回目の開催を迎えたCS委員会

2002年5月にスタートしたCS委員会は、2012年12月の開催で100回目を迎えました。CS委員会は、お客様満足度(CS)向上の観点から経営課題を共有することにより、全社レベルの課題に対して継続的かつ迅速な行動を取れる仕組みを構築しています。お客様の声をベースに、特に、経営に対するITの重要性が高まる昨今、お客様から当社に対する期待の変化に迅速に応え、お客様に満足していただけるサービスをお届けできるよう活動しています。



満足度調査

コベルコシステムでは、お客様からのご意見やご評価を頂戴するため、3つの満足度調査を毎年、行っています。数字での評価とともにコベルコシステムが真っ先に改善すべき点など、忌憚のないご意見をいただくようにしています。

- ① お客様満足度調査 (営業/SEの活動、サービスや成果物など当社の活動全般)
- ② プロジェクト満足度調査 (構築・開発のプロジェクトごとに運営・成果等各項目)
- ③ サービス満足度調査(運用保守サービスごとの各項目)

いただいたご意見やご指摘は、分析、対策の立案やお客様のシステムの安定稼働へのアクション、お客様に満足していただけるサービス品質の検討など、全社や部門間をまたがる重要なテーマや課題を改善アクションに展開・実施します。その進捗状況はお客様と共有します。お客様のご期待や真意を理解し応えることで、パートナーとして認めていただけるよう、成長を図っていきます。

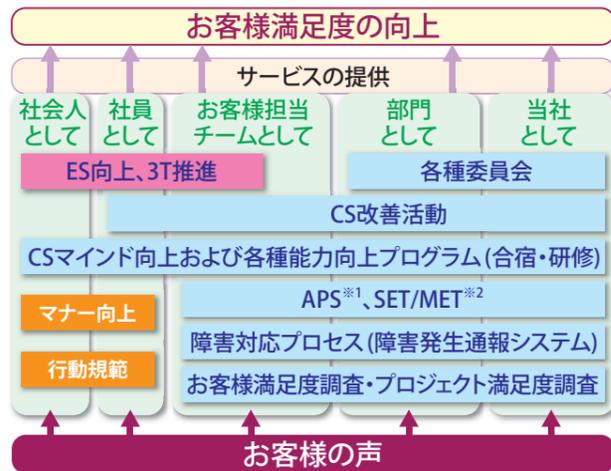
主な改善施策

1. お客様視点での組織改正

当社の価値を最大限に活かし、お客様にトータルソリューションをご提案すべく、部門間連携をさらに強化するためにすべての営業部を集約し、営業本部を設置しました。

2. 「CS意識のさらなる醸成」活動

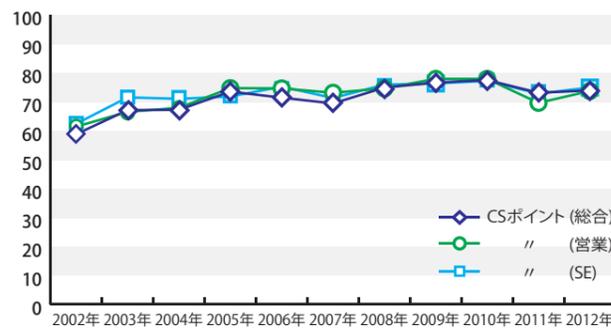
社員一人ひとりが、「次工程はお客様」を徹底し、現状に甘んじることなく、常に問題意識を持ち、自発的に、小さなことからでも改善していこうとする組織風土の醸成を図っています。



■ お客様満足度向上のための仕組み

※1 APS(アカウントプランニングセッション) = お客様について理解を深め、最適なソリューションの検討と活動計画を策定します。

※2 SET/MET = お客様のご要望やご期待を直接お伺いし、それに対して具体的にアクションをお客様とともに決定(SET)し、コベルコシステムは、これに沿って活動し、お客様に評価(MET)していただくプログラムです。



■ お客様総合満足度 (CS)

CS意識のワンランクアップ

CSスローガン

毎年、社員からCSスローガンを募集し、全社員の投票により翌年のスローガンを決めていきます。決定したスローガンはポスターにして執務フロア、会議室、各事業所と、全社のあらゆる場所に掲示され、社員のCS意識の向上を喚起しています。



■ 2013年度CSスローガン

CS改善活動

お客様に満足していただけるサービスの提供につながるために、同じ問題意識を持った社員がチームを組んで自発的にCS改善活動に取り組んでいます。

ここ数年、活動チーム数は着実に増え、2012年には44チームがCS改善活動に取り組みました。CS改善活動を通して、問題の発見や解決の能力の向上、そして、お客様に貢献したいとの思いがさらに高まってきています。

また、チームとしての共同作業を通して生まれるチームワークなど、相手を思いやる気持ちも社員に醸成されています。社員が日々努力して改善した業務プロセスなどを相互に紹介してさらなる改善につなげるための発表会を毎年実施しています。予選会で勝ち残った8チームによる本選において激戦を制したのは「関西ヘルプデスクチーム」の皆さんでした。



■ CS改善活動発表会 (2012年9月12日)

CS委員会ニュース

社員一人ひとりがお客様の気持ちを理解することの重要性を再認識し、常にお客様の立場に立った行動ができるように、毎月一回CS委員会ニュースを発行しています。

先輩社員の体験談や書籍等で感動した記事の紹介などをコラムとして掲載しています。また、街で見かけたCS、社内のCSに関係のある行事の紹介、CS川柳など親しみやすさを心がけることで、社員が楽しみながらCS意識の向上を行っています。

中堅社員によるCS集中討議

社員の「腑に落ちたCS意識の浸透」を目的に、2010年から毎年2日間の日程で中堅社員を対象として集中討議会を実施しています。お客様視点での思考の大切さ、それに向けた行動の変革などについて真剣な議論が行われています。

2013年度CSスローガン作者の声

ERPソリューション本部 豆野 喬彦さん

「これまでの自分の仕事の中で、お客様に喜んでいただいたことって、何だろう?」「お客様のために、自分からできることって何だろう?」そう考えて、このスローガンができました。このスローガンを実践して、お客様に喜んでいただけるよう、頑張っていきたいと思っています。



2012年度CS改善活動最優秀賞チームリーダーの声

ICT本部 藤井 和子さん

ヘルプデスクお客様満足度向上のための改善活動 チーム名 関西ヘルプデスク



前列中央が藤井さん

この活動は今回の改善活動発表会のためではなく、普段から少しずつ、長く続けてきた活動です。この活動を続けてこられたのは、ヘルプデスク設立当初に掲げた理想がしっかりと生きていたおかげであり、メンバーのおかげでもあります。「ヘルプデスクの声はお客様の声」と、SO本部の中でも大切にされ、何かあればすぐに改善していただいています。中にいると効果が見えづらく、客観的に評価できない面もありますが、このような形で評価をいただけたことで、改めて励みになりました。これからも一丸となって要になれるよう活動していきますので、どうぞよろしく願っています。



■ 中堅社員によるCS集中討議の様子

ITソリューション/サービスを通じてお客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

- ① お客様と夢を共有し、お客様の夢の実現に向けて事業活動を展開します
- ② ITソリューション/サービスにおける確かな知識と先進の技術を保有し、高品位なサービスの提供を継続します
- ③ お客様に信頼していただけるサービス品質を確保します

お客様事例 コベルコ建機様

コベルコ建機株式会社様(本社:東京都品川区、広島市佐伯区 社長:藤岡 純様)は『ユーザー現場主義に基づき、真に価値ある商品、サービス、情報を提供することで顧客の満足に応えるとともに、豊かな社会の建設に貢献する。』という経営理念の下、建設機械、運搬機械の製造、販売ならびにサービスを提供する製造業のお客様です。日本のみならず、アジア、欧州、米国へグローバルに事業展開されています。

また、ハイブリッドショベルカーなど、最新の低燃費油圧ショベルを開発し、地球環境にやさしい建設機械の商品開発を積極的に進めておられます。

一方、CSR活動にも力を入れておられ、「人と地球の未来を考えるコベルコ」というコンセプトで、社会に対して、地球に対して、ステークホルダーに対して、常に心のこもったハートフルな活動を展開中です。

とりわけ「コベルコ建機CSR基金」の運営では、地球環境保護・人材育成・地域社会貢献をテーマに、建設機械を通じた地域交流や美化活動、奨学金制度など、国内外問わずさまざまな活動を幅広く支援されています。

- ▶ コベルコ建機様のホームページ
<http://www.kobelco-kenki.co.jp/>
- ▶ CSR活動紹介ページ
<http://www.kobelco-kenki.co.jp/csr/>



■ GEC・五日市場 航空写真



■ GEC外観写真



■ 20トン級ハイブリッド油圧ショベル『SK200H』

グローバル展開とスピーディーな商品開発を支えるために基幹システムはグローバル標準に対応したERPパッケージをベースとされています。またワールドワイドの業務を支援するために、コベルコシステムデータセンターにて24時間のシステム運用体制とインフラを構築しています。

2012年、世界中のユーザーから信頼される製品の開発を日本で行いながら、生産・販売拠点へ発信し、「開発力」「調達力」「ものづくり力」を継続的に深化させるために、広島市にグローバルエンジニアリングセンター(GEC)を開設されました。

コベルコシステムでは、GECと主要工場にて開発生産性を向上させるために、フレキシビリティのある働き方を支え、セキュリティを重視したネットワークと無線LAN環境を構築させていただきました。商品開発では、グローバル化と製品の多様化に対応するため、3次元CADとPDM(Product Data Management)^{※1}を核としたさまざまな仕組みを構築され、設計のフロントローディング化^{※2}によるさらなる開発期間の短縮や業務の効率化に取り組まれております。コベルコシステムはコベルコ建機様のグローバル展開と製品開発力向上をささえるICTパートナーの主要な1社として、システム設計、開発、運用、ハウジングの分野を中心に全包的にお手伝いさせていただいております。今後はさらに品質の向上とスピーディーな対応、24時間サポート体制を強化してコベルコ建機様のビジネス拡大に貢献してまいります。

※1 PDM(Product Data Management) = 工業製品の開発工程において、設計・開発に関わるすべての情報を一元化して管理し、工程の効率化や期間の短縮を図る情報システム
出展: IT用語辞典 e-Words

※2 フロントローディング化 = 製品製造やシステム開発のプロセスにおいて、初期工程(フロント)に重点を置いて集中的に労力・資源を投入して後工程で発生しそうな負荷(仕様変更など)を前倒することで、品質向上や納期短縮を図る活動をいう。
出展: ITmedia 情報マネジメント用語辞典

お客様事例 ナブテスコ様

ナブテスコ株式会社様(本社:東京都千代田区 社長:小谷 和朗様)は、モノを動かす、とめる「モーションコントロール技術」を核に、鉄道、航空、自動車などの輸送分野から、ロボット、建設機械、自動ドアなどの産業分野、そして生活・環境分野にいたるまで、広範な領域で事業を展開している製造業のお客様です。

日本国内に広範なサービス拠点をもち、さらにアジア、ヨーロッパ、アメリカを中心としたグローバル展開を積極的に進め、海外売上高比率は40%を超え、グローバルに成長を続けています。多岐に渡る製品は各市場で高い占有率を有し、信頼性の高い製品の提供を通じて、安全・安心・快適な社会の実現にも貢献しています。

また、IR(Investor Relations)活動を通じて、企業価値向上に積極的に取り組んでいます。市場関係者の高い支持を得て、日本IR協議会が選定する2012年度第17回「IR優良企業特別賞」を受賞されました。

- ▶ ナブテスコ様のホームページ
<http://www.nabtesco.com/>

ナブテスコ様は、企業競争力を向上させるために2004年に事業統合を行われました。このシナジー効果を早期に享受し、競争優位性を確立するために、経営基盤の強化、経営のスピードアップを急務の経営課題に上げられました。

この経営課題を解決するためにはIT活用が重要不可欠なファクターだと認識し、基幹システムをSAPに統合し、戦略的なIT基盤を構築されました。これがナブテスコ様の成長を大きく支えました。昨今では、グローバルでの「業務標準化」と「可視化」の実現を目指し、SAPの海外展開を推進されています。

ナブテスコ様は、さらなるグローバル化に対応するために、グループ全体のSAP基幹システムをクラウド型で運用することを検討されています。

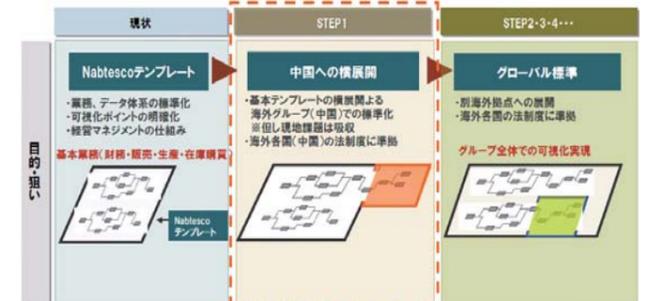
コベルコシステムは、ナブテスコ様でのSAPによる基幹システム統合、インフラ基盤の再構築、そして、中国への展開を支援させていただきました。また、現在も、国内SAP環境の運用、ネットワーク・内線電話網の保守、運用を支援しています。さらに、クラウド基盤の提供によるグループ全体での運用効率の向上やグループ全体での可視化向上の仕組み作りを支援する体制を構築しています。



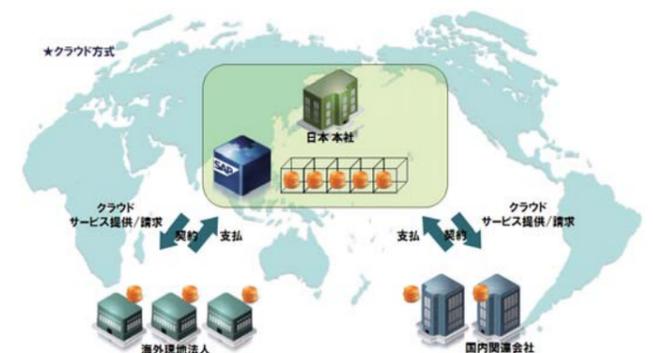
■ ナブテスコ様の製品群



■ 2012年度第17回日本IR優良企業特別賞を受賞



■ SAPテンプレートでグローバル展開



■ 基幹システムのクラウド化でさらなるグローバル展開へ

ITソリューション/サービスを通じてお客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

- ① お客様と夢を共有し、お客様の夢の実現に向けて事業活動を展開します
- ② ITソリューション/サービスにおける確かな知識と先進の技術を保有し、高品位なサービスの提供を継続します
- ③ お客様に信頼していただけるサービス品質を確保します

セキュリティなくしてビジネスなし

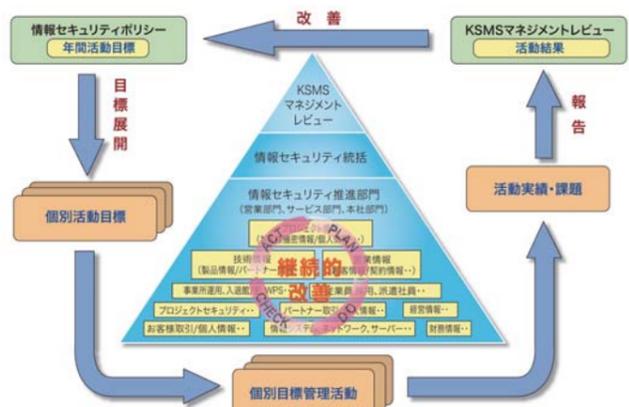
■ コベルコシステム情報セキュリティマネジメントシステム

KSMS: Kobelco systems information Security Management System

情報セキュリティのリスクは、技術進歩・製品進化・事業内容により、常に変化し続けています。その変化に追従し、セキュリティ対策を取っていくことは、企業存続に必要不可欠となっています。コベルコシステムでは、これらの取り組みをKSMSとして定め、経営幹部によるマネジメントレビューの下、情報セキュリティポリシーの設定・見直し、および、セキュリティ活動をPDCAサイクルとしてまわし、リスクの変化に適応した最適なセキュリティ水準を維持するようにしています。

具体的には、「物理環境」(事務所、ロッカー等)、「システム環境」、「人(社員・協力会社等会社に関連する人)」、「社会的責任」、「ビジネス」等の各視点から、セキュリティ活動の目標と指標(KPI)を設定し、その達成に向けて具体的活動を行っています。これらKPIは、モニタリング・評価を行い、改善活動につなげています。このような各視点からの一連の活動により、情報セキュリティリスク全体を網羅し対応に漏れがないようにしています。

もちろん、突発的なセキュリティ事象にも対応できる全社連絡体制の整備はもとより、全社的なセキュリティ啓蒙活動(会議・研修・パトロール)も計画的かつ定期的実施し、社員一人ひとりの意識向上を図っています。



■ KSMSのマネジメントサイクル

■ 情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)

セキュリティレベルの達成状況をより確実なものとするために、「ハウジングサービス」(2003年)「セキュリティシステム運用管理サービス」(2005年)「ソリューションサービス」(2012年)については、技術的なセキュリティ対策と組織全体のマネジメントの両面から取り組む情報セキュリティマネジメントシステムを確立し、第三者によるISMS適合性評価を受けています。

お客様からお預かりした大切な情報資産またはその情報資産へのアクセスをいかに高い管理技法による管理下に置き、それを維持し続けるのが、技術力と職人気質を誇りとして持ち、お客様主義を徹底する当社としての重要な使命であると考えています。

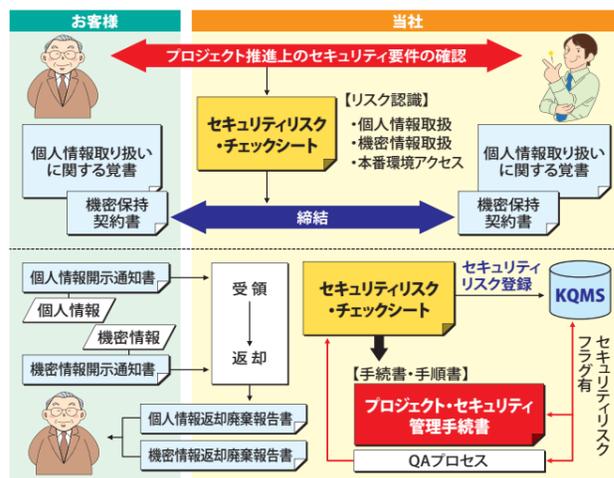
■ プロジェクトセキュリティプロセス

PSP: Project Security Process

お客様からお預かりしている情報資産を守ること、そして、その情報資産へのアクセスを管理することは、コベルコシステムとして重要な使命です。PSPは、2009年から推進しているプロジェクトにおけるセキュリティリスク(個人情報取扱・機密情報取扱・本番環境アクセス)を把握した上で、必要な対応策を実施していく管理手法です。

具体的には「守るべき情報資産の特定」「メンバーの着任/離任対策」「作業場所のセキュリティ維持」「ユーザーID/アクセス権管理」「権限分離の評価と対策」等について対応策を定め、お客様の合意を得ながら、プロジェクトのセキュリティを確保しています。

コベルコシステムでは、プロジェクトごとに特定されたリスクについて、お客様とコミュニケーションを図りながら適切に管理していくことが、必要不可欠であると考えています。



■ プロジェクトセキュリティ対策概念図

■ プライバシーマーク

プライバシーマークは、個人情報を適切に保護する体制を整備し、JIS Q 15001(個人情報保護マネジメントシステム要求事項)を満たす事業者を認定してプライバシーマークを付与する制度です。近年、クラウドコンピューティングやビッグデータなどの新技術が目される中で、個人情報保護の重要性はますます高まっています。今後もお客様の信頼に応えるべくプライバシーマークに関わる活動に注力していきます。

品質向上活動に終わりはなし

コベルコシステムでは、システム開発・構築における品質向上を図るため、1999年に認証を取得したISO9001(品質マネジメントシステム)をベースにCMMI(統合能力成熟度モデル: Capability and Maturity Model Integration)の考え方を取り入れ、その取り組みを全社で統一した品質マネジメントシステムである「KQMS」を構築、運用しています。さらに、この「KQMS」の下にシステム開発・構築のプロセス標準である「KDPS」、個々のサービスプロジェクトの状況をレビューする「品質レビュープロセス」というコベルコシステム独自の仕組みを構築しています。

■ 品質マネジメントシステム

KQMS: Kobelco systems Quality Management System

全社で共通のQ(品質)、C(コスト)、D(進捗)の管理サイクルを制定し、それぞれのプロジェクト状況をKQMSサポートシステムで一元管理しています。これによりQCDの管理レベルの平準化とプロジェクト情報の見える化を実現しており、さらに品質方針・品質目標管理に基づくマネジメントサイクルを通じて継続的に改善活動を行い、組織としてのQCD管理レベルの向上を図っています。

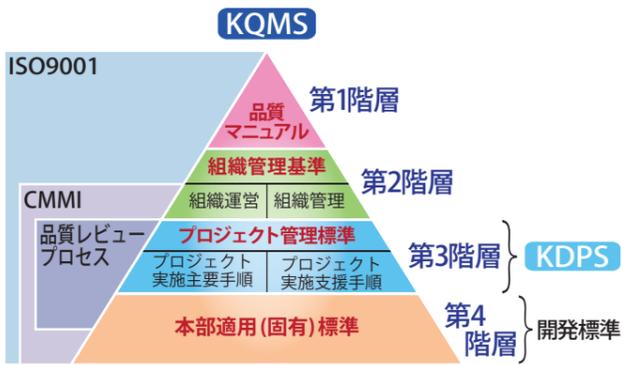
■ コベルコシステム開発プロセス標準

KDPS: Kobelco systems Development Process Standards

KDPSは、システム開発・構築のプロセスに関するコベルコシステム独自の管理基準であり、システム開発・構築のベストプラクティスとしてのプロセス改善モデルであるCMMIの考え方を取り入れて、組み立てています。

■ 品質レビュープロセス

コベルコシステムの品質レビュープロセスは、個々のシステム開発・構築を、お客様のご要望を満たし、高品質かつ計画に沿って確実に実現するために実施している独自のレビュープロセスです。お客様への提案段階からプロジェクト期間全体を対象としており、プロジェクトの成功を脅かすリスクの特定・定量化・対応策策定を行うため、特別に訓練されたレビューアにより実施しています。



■ コベルコシステムの品質管理体系

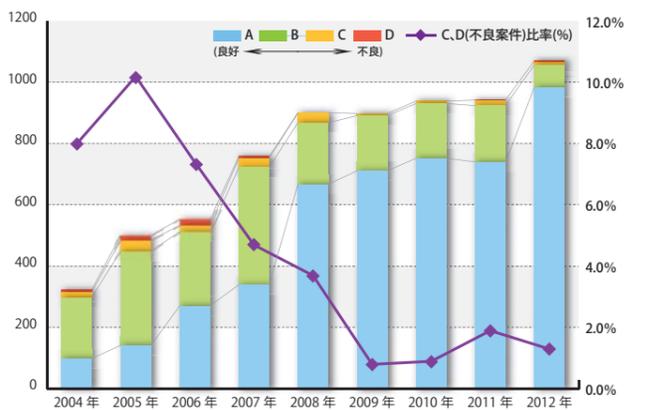
■ プロジェクト教訓情報データベースの社内公開

コベルコシステムでは、毎年数多くのプロジェクトを実施していますが、過去のプロジェクトから学ぶことはまだまだ多く、うまくいった経験や、うまくいかなかった経験、そのいずれもコベルコシステムにとって貴重な財産です。「品質レビュープロセス」を通じて、多くのプロジェクトの情報が集まりますが、それらの中から選んだプロジェクトのプロジェクトマネージャーに話を聞いて、そのエッセンスをデータベースにまとめて社内公開し、他のプロジェクトマネージャーのスキル向上に役立てています。

これらの活動により、不良案件(計画に対するQCDのずれが認められる案件)の比率は年々減少し、2008年には当初の目標であった4%以下を達成しました。しかし、2009年を底にして2010年以降増加傾向となったため、2012年度は、会社全体でのトラブル検知と予防策のさらなるレベルアップが急務であると捉えられました。

対策として、技術・スキル委員会でデリバリー・エクセレンスタスクを立ち上げ、リスク管理を中心とした品質レビュープロセスを大幅に見直しました。例えば、比較的低いリスクも特定し、範囲を拡げてリスク管理を徹底するように変更しました。また、進行中のプロジェクトにおいては、不良案件に至っていないもののQCDに懸念が生じた段階でTOPマネジメントに報告し、プロジェクトマネージャーより上位のマネジメントが参画して対策を進めるように変更しました。

その結果、不良案件比率は減少に転じ、2012年度は1.3%にすることができました。



■ プロジェクト月次評価別件数

ITソリューション/サービスを通じてお客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

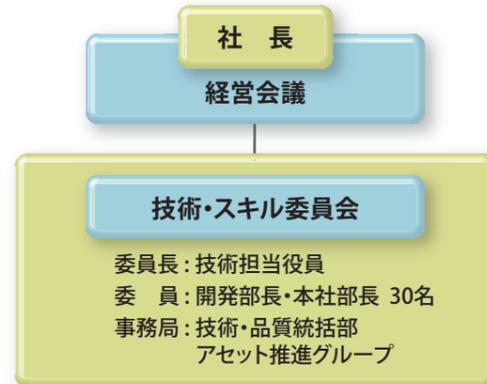
- ① お客様と夢を共有し、お客様の夢の実現に向けて事業活動を展開します
- ② ITソリューション/サービスにおける確かな知識と先進の技術を保有し、高品位なサービスの提供を継続します
- ③ お客様に信頼していただけるサービス品質を確保します

技術・スキル委員会

技術・スキル委員会は、経営会議の諮問委員会として、技術担当役員を委員長とし、各本部の開発部長・本社部長(30名)を委員として構成しています。これまでの活動には、当社の品質体系や開発プロセス標準の審議やソリューション・テンプレートのアセット化推進、先進技術の推進、フォーカススキル等の答申を行い、当社の技術・スキルの礎となってきました。

▶ 2012年の主な活動

- ① デリバリー・エクセレンスタスクの実施(中期重点施策)
- ② KTO2012の構築
- ③ テンプレートの開発、活用
- ④ 秘伝のタレ2012の編集



KTO (KOBELCO SYSTEMS Technology Outlook)

コベルシステムでは、発展的な視点から当社が活用すべき技術・スキルの今後を鳥瞰できる「KTO(KOBELCO SYSTEMS Technology Outlook)」を、2006年から作成しています。KTOの内容は、毎年定期的に更新し、グローバルレベルの先進技術動向や国内のIT業界

動向、その成熟度を捉え、当社の事業メニューに特化した技術や先進技術への取り組みの方向性を示します。お客様が直面されている課題の解決や次期IT環境構築のロードマップ作成をお客様とともに進める一助として活用いただけます。

【KTOの構成】

■ 業界動向

「いち早くキャッチアップすべき、新しい技術は何か」「競争力を保つのに必要な技術は何か」ITを利用する多くの人々がどのような技術に関心があり、またその成熟の度合いを知ることは重要です。全体を網羅し、俯瞰することにより、その年の技術トレンドを理解することができます。

■ 先進技術動向

IT業界のピックベンダーは、自ら業界のイノベーションをリードしていますが、新技術への期待は過剰な宣伝により一時的に高まります。技術の黎明期から安定期にいたるまでの、成熟度の変化を捉えて技術の採用時期を考慮することが必要です。技術動向では、中長期的な技術を鳥瞰することができます。

■ 当社の先進技術フォーカス分野

先進技術フォーカス分野は、コベルシステムの先進技術への取り組みの方向性を示し、今後の事業メニューを支える技術をリードします。直近の先進技術フォーカス分野では、「エンタープライズ・モバイル」、「クラウドの構築・運用」、「ビッグデータ活用による価値創出」、「開発と運用の連携 DevOps」という4テーマを定め、先進技術への取り組みを推進しています。

■ 当社の事業メニューに特化した技術

コベルシステムは、お客様の課題を解決し、お客様価値創出に貢献するため、事業メニューに特化した技術を追求しています。お客様とのパートナーシップの強化を通して、お客様の競争力向上に貢献します。

■ 冊子「KOBELCO SYSTEMS Technology Outlook ご紹介」内容の一例

外部からの評価

お客様に納めた先進的なプロジェクトやアセットビジネスの取り組みなどを評価いただきました。

コベルシステムにとって一番うれしいのは、お客様からの「ありがとう」です。2012年もお客様から多くの「ありがとう」が届きました。その他、個別に様々なお客様のプロジェクトを担当させていただき、数多くの感謝状や表彰状・MVP・貢献賞などをいただきました。

これからも、お客様から笑顔で「ありがとう」と言っていただけるよう、お客様のコラボレーションパートナーとして尽力していきます。

■ SAP Award

2012年は、大平電業株式会社様向け「ERP導入プロジェクト」が、また2013年は、芝浦メカトロニクス株式会社様向け「新基幹情報システム導入プロジェクト」が「SAP AWARD OF EXCELLENCE プロジェクトアワード優秀賞」を受賞しました。これにより「SAP プロジェクトアワード」は、4年連続6回目の受賞となりました。



■ SAP AWARD OF EXCELLENCE 2013 プロジェクトアワード優秀賞

■ MCFrame Award

「MCFrame Award 2012」の「Excellent Partner Award」を受賞しました。これによりMCFrame Awardは、2年連続3度目の受賞となります。



■ MCFrame Award

■ OBC Partner Award

株式会社オービックビジネスコンサルタント(OBC)様のアワード「OBC Partner Award 2011-2012」の特別賞を受賞しました。



■ 「OBC Partner Award 2011-2012」の特別賞

■ 田宮賞 銅賞

『秘伝のタレ』を活用したアセットビジネスの取り組みが、田宮賞「銅賞」を受賞しました。田宮賞は、神戸製鋼グループの「ものづくり」を支えた事業に与えられる賞です。



■ 田宮賞 銅賞

■ プライバシーマーク制度貢献事業者表彰

プライバシーマークの制度運営を担う一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)からプライバシーマーク制度貢献事業者として表彰され感謝状をいただきました。制度設立当初の2000年にいち早くプライバシーマークを取得し、多年にわたり個人情報保護のレベル向上を積極的に推進してきたことが認められました。



■ プライバシーマーク制度貢献事業者表彰

ビジネスパートナー様と健全でWin-Winの関係を築く

一体となって情報セキュリティを確保する

コベルコシステムは、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行しています。その際、ビジネスパートナー様には、コベルコシステムまたはコベルコシステムのお客様先に常駐し業務に従事していただく場合があります。どのような場合も、コベルコシステム社員と同様の基準でセキュリティを確保し、お客様に安心をお届けできるようご協力いただいています。

具体的には、コベルコシステム社員が受講するのと同じセキュリティ研修の内容を、ビジネスパートナー様の対象社員に理解していただくよう、各社の責任者の方に依頼し、各社内で研修を実施していただいております。

また、ビジネスパートナー様の対象者全員が研修を履修し、その内容を遵守することを確認するため、「セキュリティ遵守の誓約書」をご提出いただいています。

当社では、社員に対し、セキュリティ事項を遵守し、その浸透・徹底を図るために毎年、その内容を更新し、継続的に研修を行っています。ビジネスパートナー様の対象社員の方にも履修していただくことで、お客様のセキュリティ確保につながっています。



コベルコシステムとビジネスパートナー様でセキュリティを確保

ともにコンプライアンスを遵守し業務遂行力を高める

コベルコシステムでは、ビジネスパートナー様とともに成長していくため、ビジネスパートナー様の「コンプライアンス遵守状況」と「業務遂行力(プロジェクト遂行力)」というふたつの観点から総合的な確認を行っています。

「コンプライアンス遵守状況に関する確認」では、会社としてのコンプライアンスへの取り組みを以下のような項目で確認しています。

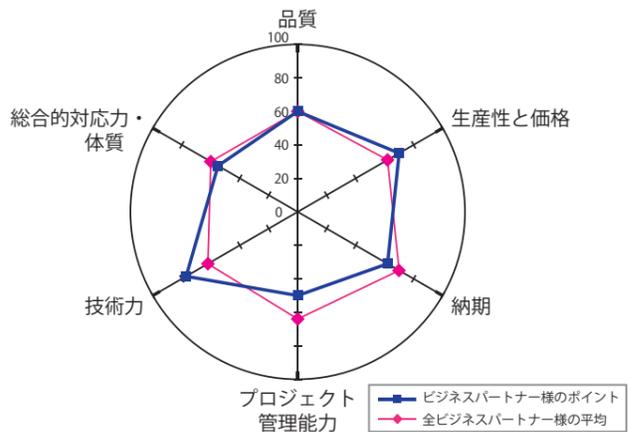
- ① コンプライアンスに関する専任者の設置等
- ② 取引の適正化に向けた取り組み姿勢
- ③ セキュリティ管理
- ④ 公的承認の取得
- ⑤ 組織的な安全管理、人的安全管理、物理的安全管理、技術的安全管理



「業務遂行力(プロジェクト遂行力)の確認」は、実際のプロジェクトでビジネスパートナー様と協業したコベルコシステムのプロジェクトマネージャーが以下の項目で判断しています。

- ① 品質
- ② 生産性と価格
- ③ 納期
- ④ プロジェクト管理能力
- ⑤ 技術力
- ⑥ 総合的対応力・体質

各ビジネスパートナー様のレベルアップ活動を支援するため、上記の結果をフィードバックしています。



■ ビジネスパートナー様の業務遂行力の確認例

- ① CSRIに基づいた公正なパートナーシップを維持します
- ② 当社との協業を通じてビジネスパートナー様とともに経営基盤、経営品質の向上を目指します

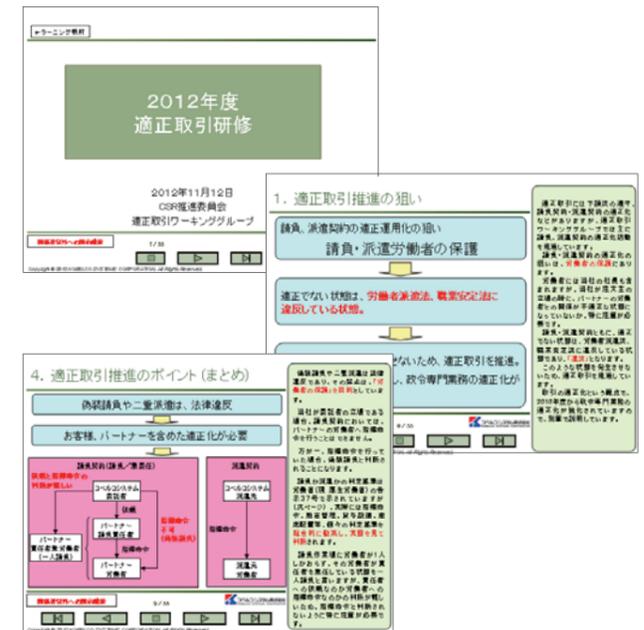
適正取引の推進

ビジネスパートナー様への業務の委託方式には数種類ありますが、コベルコシステムでは、それぞれの方式に合わせた発注・進捗管理を行っています。それらを適正に行うために、「CSR推進委員会」の下部組織として「適正取引部会」を設け、具体的なガイドをeラーニング等により社内にて徹底する一方、ビジネスパートナー様に対しても定期的なレターの送付、アンケート調査、個別訪問の実施などを通じてその理解と実践をお願いしています。

これらの活動により、ビジネスパートナー様との健全な関係を維持し、お客様をサポートしています。

主な取り組みは、以下の3点です。

- ビジネスパートナー様における適正取引状況の調査
- ビジネスパートナー様の再委託先活用状況確認
- 請負の適正化のための自主点検実施および実態調査



■ 適正取引に関する研修(e-ラーニング)

ビジネスパートナー様への感謝

コベルコシステムでは、ビジネスパートナー様への感謝として、年に2回、プロジェクト遂行部門からの推薦を受け、貢献度の高かったビジネスパートナー様へ感謝状を贈呈しています。

2012年1H(上半期)は、ホストコンピュータ統合に関わるプロジェクトについてパートナー様へ感謝状を贈呈いたしました。



■ ホストコンピュータ統合に関わるプロジェクトについて(株)サイプレス・ソリューションズ様へ感謝状を贈呈(2012年1H)

また、ビジネスパートナー様からは当社のお付き合いにあたり、次のようなお声をいただきました。

株式会社 第一コンピュータリソース 大阪支店 支店長 松永豊文様



株式会社第一コンピュータリソースは、創業以来45年に渡り、関東・中部・関西・九州で展開している独立系のソフトウェアの開発会社です。コベルコシステム様とは、20数年間に渡りお取引させていただいており、全国の各事業所で数多くの弊社社員がシステム開発に携わらせていただいております。コベルコシステム様のCSRへの取り組みは、我々パートナー企業においても見習うべき素晴らしい活動を実践されていると実感しております。特に「コンプライアンス遵守状況に関する確認」や「業務遂行能力の確認業務遂行力確認」は、パートナー企業の課題を的確に指摘頂きその改善をともに考えて行くことで、パートナー企業のレベルアップにつながっていることは言うまでもありません。これも、コベルコシステム様のパートナー企業と共に成長していくと言う考えがあればこそと、深く感謝しております。また、そんな活動に少しでもお答えできるよう日々努力し成長することが我々パートナー企業の責務であると考えております。これからも、コベルコシステム様とともに成長し、ともにWin-Winの関係が継続することを期待しております。

社員の成長と働き甲斐がコベルコシステムの企業発展の原動力である

～ 3T (楽しい、短時間、達成感) 職場の実現 ～

人財育成の仕組み

『コベルコシステムの最大の資産は人であり、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮こそが会社発展の原動力である、という認識の下、一人ひとりが互いを尊重し合いながらイキイキ働き、プロフェッショナルとして人間として成長できる会社の実現』を人事基本理念においています。その基本理念の下、「期待する人材像、人材要件」として下記の通り定義しています。

- ① ITのプロフェッショナルとして、常に自らの専門性を磨き、高めるとともに時代や環境の変化に対して柔軟に自分で考えて動くことのできる人材
 - 高度なITスキル・知識の習得
 - 向学意欲、自立・自律心
 - 論理的思考力、主体的行動力(問題解決力)
- ② 人と協働し、他も活かし、組織・チームの目標達成のために、組織・チームの能力の最大化と最大限発揮に貢献できる人材
 - 価値観や考え方の多様性を認め、自分と同じように他人も大事にでき、互いに対等の立場で協力して仕事ができる力
 - コミュニケーション能力(傾聴力、アサーション能力)

- ③ 社会人・企業人として、社会や会社のルールを遵守し、お客様に対しても常に責任をもって誠実に対応できる人材
 - 責任感
 - 真面目・謙虚さ

これらを具現化する仕組みとして、複線型プロフェッショナル職制度を人事処遇制度の根幹に据えながら、様々なキャリアステージにおいてスキルアップできる教育体系や、成長度合いを自ら確認できる社内認定制度を整備しています。

また、変化の激しい時代において、社員自らが様々な変化に気づき、即座に対応していくことが一層求められています。そこで当社では、「育自考動への進化」をスローガンに掲げ、「自ら学び、スキルアップを図る風土の醸成」に向け2012年に検討を開始しました。2014年を目標に、育成体系や研修内容などの段階的な刷新を進めています。

KCP (コベルコシステム認定プロフェッション)

コベルコシステムでは、当社発展の牽引力となる人材の育成と登用、および各職種を目指すべき人材像の可視化を狙いとした「KCP認定制度 (Kobelco systems Certified Profession)」を設けており、高度な専門技術・スキルを有し、ビジネス貢献を具現化できる社員をKCPとして認定し処遇しています。

2012年度から、従来のプロジェクトマネジャー、ITスペシャリストに加え、セールス分野においても当制度の運用を開始しました。セールス職社員にとって目指すべき人材が可視化されることで、スキル向上意欲の促進、自律的な成長・学習とキャリアアップの動機付けになっています。

社員級	ライン	コンサルタント	セールス	プロジェクトマネジャー	ITスペシャリスト	経営スタッフ	事務		
理事	本部長/部長	コンサルタント	セールススペシャリスト	プロジェクトマネジャー	ITスペシャリスト	経営スタッフ	事務		
G1 主管	KCP Superior							KCP Superior	KCP Superior
G2 副主管	KCP Advance							KCP Advance	KCP Advance
G3 専任	G長・室長	KCP Associate	KCP Associate	KCP Associate					
G4 主任									
G5 副主任									
G6 先任									
G7 初級									

※ スペシャリスト試験は、プロジェクトマネジャー、ITスペシャリスト、セールス、エンジニアリングの各職種で実施されています。

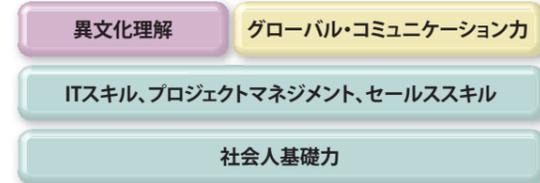
■ 複線型プロフェッショナル職制度 / スペシャリスト試験制度 / KCP認定制度

- ① 社員一人ひとりの成長と組織の成長を支援します
- ② 社員と組織の絆を深める企業文化と職場風土をつくります
- ③ 未来の社員になる人々から、一緒に仕事をしてみたいと思われる会社になります

グローバル人材育成

中期経営計画「Growth2014」の5つのエンジンのひとつである「グローバル化支援サービス」を担う人材を輩出するため、2012年にグローバル人材要件を定義し、育成体系および研修プログラムを整備しました。

グローバル人材といっても、何も特別な要件を求められるのではなく、「社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)や「ITスキル、プロジェクトマネジメント、セールススキル」が土台になります。その上で、より一層強化あるいは幅を広げることが求められる要件として「異文化を理解する力」、「世界で幅広く通用するコミュニケーション力」に注力する必要があると当社では考えています。



グローバル人材特有の要件を満たすため、2010年から展開している語学力強化研修に加え、新たに以下の研修プログラムを構築しました。

- ▶ グローバル・プロジェクトマネジメント研修(国内開催)
 - IT業界におけるグローバル化の最新動向
 - グローバル案件に必要なプロジェクトマネジメントの要諦とは
- ▶ グローバルビジネスディスカッション研修(国内開催)
 - 世界からみた日本人の特徴やコミュニケーションスタイルの違い
 - 自己主張を妨げる要因と克服するためのコツ
 - グローバルビジネスにおいて有効なディスカッションスキル
- ▶ グローバル・リーダー研修(海外開催)
 - グローバル・プロジェクト推進上、直面する問題とは
 - グローバル・プロジェクトに立ち向かう姿勢や役立つ方法
 - 全編英語でのディベート、ディスカッション、プレゼンテーション

グローバル・リーダー研修は毎年香港で開催されているPMI主催の研修で、中国や韓国企業からも多数参加しています。異文化に直接触れながら、これまで学習してきたことを活用できる研修で2012年は2名参加、2013年も2名参加する予定です。

グローバルリーダーシッププログラム参加者の声 SO本部 嶋田 昌弘さん

私が今まで受講した中で間違いなく一番「刺激」のある研修でした。この研修では異文化の方々と議論を通して、グローバルリーダーとして「自らの意見を明確に主張する」かつ「意見の相違を歓迎し納得がいくまで議論する」姿勢が非常に重要なスキルであると感じました。日本では、相手の意見を尊重し、自分の考えも柔軟に変えていくような場面もありますが、今回は研修といえども激しいディベートが繰り返される場面が多くありました。日本人の良さも理解しつつも、やはり今後グローバルリーダーとしてプロジェクトを牽引し活躍していくためには、このような「主張・防御・納得がいくまでの議論」も重要な要素であると感じました。

当研修に参加された方の中には、自費で参加された方もおり、そのモチベーションの高さに感銘を受けたと同時に、当社の研修サポート体系の充実度を実感できた研修でもありました。この研修は自身の英語力の不足を痛感し、引き続き語学力の向上に努める良いきっかけとなりました。また仕事上では、相手の意見を尊重しつつ「自身の考えを明確に伝え、議論をすることの重要性」も意識しながら取り組むように心掛けています。今後は益々グローバルに通用する会社や人材が求められてきます。まずは私自身、グローバルに通じる人材になるための志向を高く持ち行動することで、当研修の受講の機会を作って頂いたこの会社に、より多くの貢献ができればと考えております。

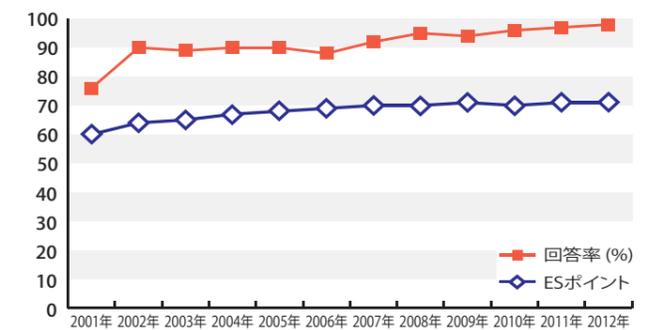


社員満足度 (ES) 調査

「社員満足 (ES) の向上なしにお客様満足 (CS) の向上はあり得ない」という基本認識の下、2001年から毎年、社員満足度調査を実施しています。社員満足度調査で認識した課題と改善策は、社長コミットメントとしてイントラネット・社内報で全社員にアナウンスし、経営計画や人事労務施策に反映しています。

2011年からは「一律から個別へ」をスローガンに掲げ、制度導入等の一律的な対応に加えて、キャリアコンサルティングや育成を主眼に置いたローテーションなど、個別事情に目を向けたサポートを行っています。また、2012年の調査から、お客様先への常駐のような業務環境属性を追加しました。これにより、業務環境ごとの満足度の違いを踏まえた分析を行うことで、部門平均値では見えづかった課題の発見や改善に向けたアクションプランを立案することが可能になりました。

社員満足度調査の質を向上させることで、社員一人ひとりの状況を踏まえた実効性のあるアクションプランを立案することができ、ES向上、CS向上につながると考えています。



■ 社員満足度 (ES)

社員の成長と働き甲斐がコベルコシステムの企業発展の原動力である ～3T(楽しい、短時間、達成感)職場の実現～

KWC活動

2003年に女性社員の活躍を支援する全社横断の自主活動として「Kobelco systems Women's Committee(略称:KWC)」の活動がスタートしました。その後、女性社員がより一層能力を発揮しながら働き続けるためにはワークライフバランスが不可欠だと考え、2010年に「Kobelco systems Work-life-balance Community」と改称し、女性社員のみならず男性社員も含めて「社員が自らイキイキと働き続ける会社」をビジョンに据え、ワークライフバランスに着目した新たな活動を展開しています。

2012年3月には、育児休業を取得する際に本人や上司・職場が抱える不安を少しでも払拭できるように「育児支援ガイド」を作成しました。このガイドは時系列(妊娠～出産～休業中～復職後)に受けられる公的サービス、活用できる会社制度が一目瞭然で分かるよ

うになっています。また、手続きや報告等必要な対応項目とスケジュール、心構えや育児休業取得経験者からのアドバイスなども充実しており、利用者にとって大変使いやすいガイドです。中でも一番の特長は、女性社員のみならず男性社員が育児休業を取得する際にも、さらには育児休業を取得する部下を持つ上司にも活用してもらえる工夫が施されている点です。

このガイドを活用することで、育児と仕事の両立を実現する社員が増えていくことに期待しています。



全社イベント

2008年から毎年、秋に実施される家族参加型の全社イベント。5年目の2012年は「コベルコシステムハッピーデー2012」と銘打って、設立25周年を祝うべく、子会社であるコベルコソフトサービスとの合同開催で企画しました。

神戸地区は、800名規模で11月11日に恒例となった神戸フルーツ・フラワーパークでの「ファミリー運動会」「バーベキュー」「ビンゴ大会」といった催しを企画しましたが、残念ながら当日の悪天候により「バーベキュー」「ビンゴ大会」のみとなりました。

東京地区では、11月17日に250名近くの社員とその家族が参加して、新宿にてお笑いを観劇。2時間近くの漫才ライブで大人からお子様までおおいに満喫し、リフレッシュ。その後は、中世ヨーロッパ

風レストランを貸切り、ビュッフェ形式にて食事を堪能し、親睦を深めました。年々、参加希望者が増加し、内容も充実してきているファミリーデーですが、「社員同士の一体感の醸成」「私たちを支えてくれる家族への感謝」をテーマに、社員とご家族への認知度や期待度も高いイベントに育ってきています。



3T推進ワーキンググループ

社長をオーナーとする3T推進ワーキンググループは、3T(楽しい、短時間、達成感)職場の実現を目指す全社横断的な推進役として、2010年11月から2年間の有期で活動を開始し、さまざまな施策を実施してきました。タイムマネジメント研修、ノー残業デー、マネジメントを通じた時間外労働の削減などです。

タイムマネジメント研修では、ライン長向け、管理職向け、一般職向けに分けて実施しました。全社員が研修を受講する事で、なぜ3T活動(短時間労働)が必要であるかの意識合わせができ、その後に展開するノー残業デーや時短施策展開が浸透しました。ノー残業デーでは、ライン長が各部署の状況にあわせて自主的に曜日や退社時間を設定し、週に1度は早く帰るよう「すいすいカエルデー」や「残業したらアカンデー」など趣向を凝らした運用を行う部署もありました。

時間外労働の削減については、月間の時間外労働が長時間に及ぶ者には、①事前申請、②超過者を対象にライン長にワーニングを提供、③ライン長から指導・対策実施、を徹底しました。プロジェクトが計画通りに進まなくなると労働時間が長くなるので、品質管理部門とも連携し全社をあげてプロジェクト品質の向上に取り組みました。

結果として目標に掲げた総労働時間の達成には至りませんでした。が、ラインマネジャーの日々のマネジメントと当活動が相まって、時間外労働時間では2012年度10%程度の削減(2010年度比)が見られました。また、ES調査の短時間労働と関わりが強い「休日の心身のリフレッシュ」や「労働時間の自己コントロール」などで2～3ポイントの改善が達成されました。

- ① 社員一人ひとりの成長と組織の成長を支援します
- ② 社員と組織の絆を深める企業文化と職場風土をつくります
- ③ 未来の社員になる人々から、一緒に仕事をしてみたいと思われる会社になります

社員の声

KWC活動

ICT本部 青野 淳子さん



私は、2003年のKWC活動当初にメンバーとして参加し、6年のブランクを経て、2011年にリーダーとして再び活動をさせていただきました。

その間に、私自身の結婚、また、同僚や後輩のライフイベントを経験、見聞きする中で、働くことと個人の生活を両立させ、充実させることが非常に大事であることを、身をもって実感しました。

2011年度のKWC活動の目玉であった「育児支援ガイド」の作成は、出産や育児を控えた社員、

およびその上長が、手厚く整えられている当社の制度を、戸惑うことなく活用できることを目的としていました。

作成に当たっては、実際に育休を取得したママ社員や、パパ社員の体験談、また、今後、結婚・出産のライフイベントが待ち構えている若手女性社員の要望も盛り込み、非常に有用性の高いものになったと自負しています。

今後は、出産・育児のみならず、介護等で長期休暇を取得したり、業務負担を抑えなければならない社員も増えてくると思います。そのような場面に応じた制度の整備や、情報の公開に会社全体で取り組んでいく必要があると思います。

3T推進ワーキンググループ活動

インダストリーソリューション本部 植村 隆幸さん



3Tの「短時間」の取り組みは、職場の常識を変えていく活動でした。当時、我々の部門では残業が定常化していました。それに対して、当初は労働時間と健康リスクの関係を訴えながら、ノー残業デーの推進などの地道な取り組みから始めていました。

ところが、2011年に、いくつかの大きなプロジェクトに問題が生じました。このような状況になると、そのプロジェクト当事者のみならず、ライン長や部内の仲間の応援が必要になり、通常業務を横に置いてでも対応することになります。結果、

残業時間も増えて心身への負担が増えることになりました。当然、このような仕事は、楽しくも達成感もありません。結局のところ、開発部門の本分であるQCDを守ることが、3T実現の上でも重要なポイントになるこ

とを再認識することになりました。そこで2012年は、部一人ひとりの労働時間をライン長が毎週チェックし、その変化に気付くことで、プロジェクトの不具合の早期発見・早期対策に努めました。その結果、2012年は大きなトラブルを発生させることなく、また、年間時間外労働が長時間に及ぶ社員を大幅に減らすことができました。今もこの活動は続けており、ライン長の定常的な仕事として行われています。

3Tの「短時間」を推進する目的は、「社員の心身の健康を守る」ことです。定量的な労働時間の目標、評価だけでなく、プロジェクトの状況や一人ひとりの社員の個別の事情に対応することが必要です。これまで「短時間」を中心に取り組んできましたが、「楽しい」「達成感」は、さらに一人ひとり個別の目標設定が必要です。会社として、価値観を共有したり、常識のレベルを上げる仕組みを作りながらも、個人の成長にベクトルを合わせた取り組みを進めていけるように考えていきたいと思っています。

NAHAマラソン参加

執行役員 内野 輝男さん



当社は2006年から毎年有志でNAHAマラソンに参加しています。きっかけは沖縄でのニアショア開発でした。

沖縄のパートナー様や沖縄の人たちとの絆を深めるためにマラソン好きメンバー4名で参加したのですが、その後、徐々に数を増やして2010年以降はランナーと応援者を含めて50名超での参加となっています。Team Kobelcoとしてランナーと応援者の名前をプリントしたTシャツと、応援者がランナーを見つけやすいようにとオレンジの帽子を全員でかぶっての参加です。

当社社員だけでなく親会社の神戸製鋼、日本IBMの方々や愛徳会(IBMビジネスパートナーコミュニティ)の参加企業、子会社であるコベルコソフトサービスをはじめとした協力会社の方も一緒に参加してくれています。家族同伴もOKです。川瀬社長も2009年から毎年ランナーとして参加しています。

NAHAマラソンはアップダウンが激しいコースを走りますが、ゴールまで地元

の方が途切れることなく声を枯らして応援してくれて、色々な差し入れをしてきます。沖縄の人たちの温かさを感じられるイベントです。

マラソン当夜は、初年度から沖縄のパートナー様との合同お疲れ様会を開催しています。前日の決起集会も含めTeam Kobelcoメンバーや地元のパートナー様との絆を深めることができる素晴らしいイベントになっています。



社員の成長と働き甲斐がコベルコシステムの企業発展の原動力である

～3T(楽しい、短時間、達成感)職場の実現～

ワークスタイルの変革への取り組み

新本社で業務スタート!

～“知”の交流と進化へ、未来創造の場に～

■ 新本社オフィスのテーマ決定の経緯

2013年4月の本社移転に向け新本社オフィスのテーマを決定するため、2012年6月から8月にかけて、部門代表を集めた、ワークスタイル変革タスク活動をワークショップ形式で行いました。コベルコシステムとしてどのようなワークスタイルの理想像を描くか、から検討を始め、新しいオフィスのワークプレイスのテーマ(理想の姿)を、“知”の交流と“進化”を支える“未来創造の場”と提言しました。またこのテーマに沿って、右の6つの設計コンセプトを設定しました。

■ イノベーションを生む新しいワークスタイルの実践

4月末に引っ越しを終え、4月30日からシマブンビルで新本社として業務を開始しました。シマブンビルの6～11階のフロア、総面積4,524㎡に、常駐協力会社の方も含め、約800名の本拠となります。

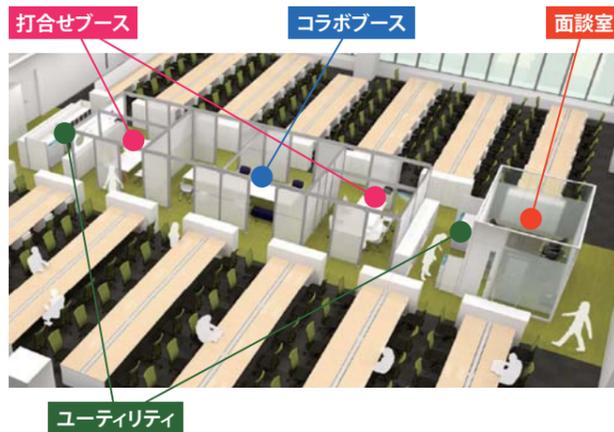
新本社は、「オープン・オフィス」を目指した設計になっています。組織変更の際にも「人」と「書類」の移動のみで対応可能な「ユニバーサルレイアウト」を採用し、コスト削減を実現します。また、スペース効率と働き方の多様化に対応した「フリーアドレス制」を導入しました。フリーアドレス対象者には、個人のPCや荷物の保管用に、パーソナルロッカーが割り当てられています。共有エリアには、業務に適したワークコーナーを設置し、フリーアドレス制をサポートしています。

- オープン・オフィス=場
- 情報がぶつかる場
- さまざまな働き方を選べる場
- 見る、感じる場
- 変化に柔軟に対応するフレキシブルな場
- 自由闊達な働き方を支える場



「ビジネスカフェ」
8階北側にダイナーブースや変形天板デスクなどが準備され、複数部門のコミュニケーションを促進します。

「ダイナーブース」
6～10階の窓際に設置しており、数人のちょっとした打ち合わせや社外常駐メンバーの帰社時の執務エリアとして使います。



■ 受付



■ 外観

- 11階 受付、会議室
- 10階 本社部門
- 9階 SO本部、ICT本部
- 8階 営業本部、SO本部、インダストリーソリューション本部
- 7階 ERPソリューション本部
- 6階 ERPソリューション本部、本社部門

- ① 社員一人ひとりの成長と組織の成長を支援します
- ② 社員と組織の絆を深める企業文化と職場風土をつくります
- ③ 未来の社員になる人たちから、一緒に仕事をしてみたいと思われる会社になります

コベルコシステムの次代を担う新入社員たち(2013年入社)

コベルコシステムでは「応募される学生さんはおお客様」をモットーに採用活動を行っており、会社説明会から採用面接まで満足感・納得感をもって臨んでいただけるよう努めています。面接等の場面では応募者の良いところを引き出し、また会社を正しく理解していただくために積極的な情報提供を行っています。

融合科学研究科 情報科学専攻 今里 圭太さん

Q.選考時の印象は?

私は大学に来ていた推薦で選考を受けたので、多少特殊なところもあったのですが、とにかく上手く自分のことを聞きだしてくれるな、と感じました。面接官の方だけでなく、面接室までの案内してくれる方まで優しく話しかけてくれて、すごくやりやすかったです。



Q.入社後の目標・抱負は?

とにかく信頼される人間になりたいです。社内外問わず安心して仕事を任せられるように。そのために今はとにかく正確に、着実に目の前のご仕事をこなして行こうと考えています。自分も会社の大切な「人材」になるために頑張ります。

外国語学部 外国語学科 英語専攻 川守田 優さん

Q.選考時の印象は?

ITとは全く接点のない学生生活を送っていたため、理系のイメージがあるSEとして選考を受けるのは不安でしたが、選考時には疑問や不安にも丁寧に回答してもらえました。人事の方が雰囲気や話を聞いて下さったのであまり緊張せずに面接に臨むことができました。



Q.入社後の目標・抱負は?

ITの知識がほとんどなかったため、入社後は新しいことだらけの毎日です。しかし、一から丁寧に指導していただける環境が揃っているので、自分の特性を活かし、会社に貢献できるSEに成長できるよう精進していきたいと思います。

経済学部 国際経済学科 木村 ゆみさん

Q.選考時の印象は?

とても人を大切にしている印象を受けました。知識だけでなく中身をしっかりとみてもらえることは、文系出身の私にとって有難いことでした。そのおかげで、他の理系出身の受験者に引け目を感じることなく、リラックスして面接を受けることができました。



Q.入社後の目標・抱負は?

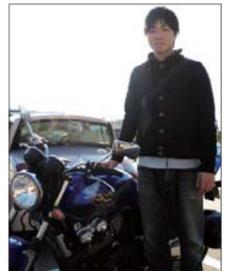
私の座右の銘である「和顔愛語」を忘れず、お客様と親密な信頼関係を築ける営業になりたいと思っています。まずは研修期間を有意義に過ごし、先輩方のスキルを沢山盗んでいこうと思います。

入社選考というクリアすべき一定の基準はありますが、コベルコシステムでは様々な能力や個性を活かした強いチーム作りを目指しており、コベルコシステムでぜひ働きたいという未来の仲間が集まってくれることを待ち望んでいます。

基幹理工学部 応用数理学科 田代 侑也さん

Q.志望動機または応募のきっかけは?

就職活動を始めた時に、SEとして働きたいと考えており、学内説明会でお話を聞く機会があったことが応募のきっかけです。高い技術力など、SEとして様々な分野で活躍できると感じたことも志望の大きな理由のひとつです。



Q.入社の手は?

説明会時に、コベルコシステムだけが会社のすべてを伝えようとしていると感じ、非常に好印象でした。また、面接時に他社の面接よりも私自身のことを一番知ろうとして下さった印象を持ち、人を大切にしている点を実感できたことが入社の手になりました。

経済学部 経済・経営学科 米山 英謙さん

Q.志望動機または応募のきっかけは?

きっかけは学内の説明会で会社説明を受けたことでした。当初、IT業界はあまり考えていませんでしたが、もともとメーカーを志望していたこともあり、ITを通じて少しでも日本のモノづくりに携わることができると思ったからです。



Q.入社の手は?

ありのままの自分を受け入れてくれる雰囲気を感じたためです。また、内定者懇親会で先輩の話を聞いていても和やかな雰囲気を感ずることができ、この会社で、この方々と働きたいと思い、入社することに決めました。

農学生命科学研究科 応用生命化学専攻 末永 卓さん

Q.志望動機または応募のきっかけは?

就職先を考える際は、「大学で得た知識を活かせるか」よりも、「楽しく仕事ができるか」、「自分が人間的に成長できそうか」という点を重視しました。Sler企業を志望した理由は、お客様と関わり合うことで世の中を広く知ることができると考えたからです。



Q.入社の手は?

会社説明会や面接で受けた印象が良かったからです。就活生を同等の人間としての目線で見、情報をなるべく開示する、といった点は、コベルコシステムの魅力だと思います。この会社のためなら頑張るって感じました。

当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して企業市民として社会への貢献を確実に実行する

- ① IT分野を中心に、人材育成、地域産業振興等を支援します
- ② 地域での自然環境保護に自ら取り組むことにより、事業を超えた社会参画を体感します

第17回アニメーション神戸 協賛



コベルコシステムでは、地域貢献活動の一環として、2007年から「アニメーション神戸」に協賛し、「Webアニメコンテスト」に「コベルコシステム賞」を設けています。2012年のテーマは「育てる・育む」でした。

このテーマは、IT企業として重要な資産は人財(社員)であると考えているコベルコシステムの、『社員の夢を育み、お客様のお役に立てる人財を育て、ITを通じて社会に貢献していくことが会社の責務である』との考えに沿って設定したものです。

■コベルコシステム賞

テーマ:「育てる・育む」
タイトル:「愛を育む」
作者: 宮本 萌 さん



■優秀賞

タイトル:「少年とロボット」
作者: WEBOT さん
タイトル:「想いに花咲く」
作者: からももあんず さん

インターンシップの受け入れ

コベルコシステムでは、地域貢献活動の一環として、2008年から兵庫県内の大学に在籍し、日本での就職を希望する外国人留学生のインターンシップを受け入れています。

日本企業で働きたい留学生を教育の一環として受け入れることによって、地域に根付くグローバルの輪を広げることにも、当社のグローバル化への適応力を養い、文化を学び、ダイバーシティのあるグローバルカンパニーとして、成長につなげることを継続しています。

【主な受入れ】

2008年	10名	経済産業省「アジア人財資金構想」
2009年	8名	経済産業省「アジア人財資金構想」
2010年	5名	ひょうご大学連携協議会
2011年	8名	大学コンソーシアムひょうご神戸
2012年	10名	大学コンソーシアムひょうご神戸

コベルコシステム賞受賞者の声 宮本 萌 さん

このたびはコベルコシステム賞という素晴らしい賞をいただき、とても嬉しく思っています。専門学校でアニメーション制作を学び、初めて出したコンペティションでしたので、最初は本当に驚きました。テーマの「育む」という言葉を考えて時、私たち学生に最も近い「育む」ものといえば、「友情」であったり、「恋愛」であったりするのではないかと考えました。その中で私は「恋愛」をテーマに「愛を育む」というタイトルでアニメーションを制作しました。内容は、だれもが経験するであろう「恋」。その日々の中でふたりが成長していく様子を表現しています。表情などはつげずに、シンプルに赤と黒の線で描いた理由はふたつ。「ふたりの小さな動作を見落とさないでほしい」という理由と、見ている人々に「こんなときってこんな気持ちだよな〜」とそれぞれに感じてもらいたかったからです。この賞をいただいたことで、自信もつながりました。コベルコシステムの皆様をはじめ、選んでくださった皆様、本当にありがとうございました。



■ 穴吹デザインカレッジ(受賞当時) 宮本さん(右) 第17回 アニメーション神戸 デジタル・クリエイティブ・アワード 審査委員長の大地 丙太郎監督と

神戸マラソン 団体ボランティア

2012年11月25日(日)に開催された神戸マラソン2012には、営業本部のメンバーを中心に、川瀬社長も加わって、団体ボランティアとして参加しました。高速神戸駅付近の区間における走路担当スタッフとして、また、この付近には歩道橋がないため、道路閉鎖により通行ができなくなる歩行者を地下道に誘導するスタッフとして活動しました。



■ 団体ボランティアとして参加しました

社員のボランティア活動

神戸マラソン ペースセッター 管理部 北垣 章 さん

私は、中学から社会人3年目まで13年間、長距離競技をしていました。選手の時には全国高校駅伝や箱根駅伝などの出場経験がありますが、このような表舞台で走れるのも、競技運営の方をはじめ、裏方になって支えてくれる多くの方々があつてのもので、いろいろな大会でお世話になりました。

現役を引退して22年間、走ることは無縁な日々を送ってきましたが、2011年、地元神戸で大きな市民マラソンが開催されることになり、私にペースセッターの打診がありました。

かねてから現役時代の恩返しとして自分に何かできないかと思っていましたので、この話は願ってもないことであり、ちょうどメタボ解消のために1年前からトレイルランニングを始めて体重を13kg減らしフルマラソンを完走できるまでになっていたため、第1回大会からペースセッターを務めております。

2012年の第2回大会からサブスリー*が新設され、そこを担当することになりましたが、市民ランナーにとってサブスリーは、とても大きな目標で皆さん本当に真剣に取り組まれています。私はサブスリー達成のためのペースメイクと、ランニング中、ランナーへのいろんなアドバイスを行うのが役割であり、ひとりでも多くサブスリーを達成できるようにランナーに負けない情熱をもって神戸の街を走りました。

そして、ゴールしたサブスリー達成の方々が手を取って喜び合っている姿を目の当たりに見たとき、少しはお役にたったのかなと、とても心地よい気分になりました。今年の第3回大会も2012年と同様サブスリーを走ることにしたいと思います。50歳を迎えて、体力的にはまだ大丈夫だけどいつまで務まるのかと少し心配がよぎります。しかし、それ以上に自分の健康のため、また今年もサブスリー達成のランナーの感激振りをこの目で見たくて、そして何よりもこの取り組みが楽しくて、11月が来るのをワクワクしながらトレーニングしていくことと思います。

これからも現役時代の恩返しとして、今私にしかできない活動として、神戸マラソンのペースセッターを通じて微力ながら、神戸マラソンの運営に貢献していきたいと思っています。「あと十年サブスリーを務めたい」これは私の密かなチャレンジです。



*サブスリー: 42.195キロを走るフルマラソンで市民ランナーが3時間を切るタイムで走ること

■サブスリーのペースセッターを務める北垣さん

ノーベル賞受賞式典パーティー日本プログラム ERPソリューション本部 和田 信敏さん 結城 浩子さん

2012年12月10日、ノーベル賞受賞式典の公式プログラムである Nobel Nightcap がストックホルムで開催されましたが、この日本プログラムに、ERPソリューション本部の和田さんと結城さんがボランティアとして参加しました。

Nobel Nightcapは、授賞式後に行われる晩餐会後の公式プログラムです。この日本プログラムは、Microsoft Project Users Forum (MPUF) がサポートを行い、和田さんと結城さんはMPUFのメンバーとして、日本側でボランティア参加し、ノーベル賞受賞者への

サプライズプレゼントの本人エピソード漫画の翻訳、総監修を担当しました。また、和田さんは、9人の受賞関係者との連絡、スケジュールコントロールも担当しました。



■ ボランティアメンバーと受賞者へのサプライズプレゼント(手前)



■ インターンシップ風景

当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して企業市民として社会への貢献を確実に実行する

環境保護活動

「森の世話人」活動

コベルシステムは神戸市に本拠を置く企業として、神戸市のシンボルである六甲山の森を守り育てる「森の世話人」活動の趣旨に賛同し、六甲山の前山のひとつである金鳥山(神戸市東灘区)の南側の森林を「Kocoroちゃんの森」と名付けて整備しています。当社の「森の世話人」活動は、2010年3月、活動地の一面を覆い、他の植物の育成を妨げるネザサ刈りから始まり、2010年に3回、2011年に4回、2012年には7回の活動を実施しました。活動当初、ネザサをきれいに刈り取っても、次の活動時には元の状態に戻っていることもしばしばでしたが、活動地中央部にある休憩所広場の北側林内一面に密生していたネザサは、これまでの活動でそのほとんどが刈り取られ、再生速度も抑えられてきています。

「森の世話人」活動は、社員・OB・関係者およびその家族により、林内の整理(ネザサ刈り、外来樹種の伐採、常緑樹の間伐、倒木・腐朽木の除去)、調査・観察会等の活動を、年に数回実施し、地元六甲山の森づくりに貢献しています。また、活動に際しては、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」のサポートを得て森づくりを行っています。



2010年の活動当初、活動地中央部の休憩所広場は、そのほとんどが大人の腰くらいまでの高さのネザサに覆われていましたが(写真左)、根気よくネザサ刈りを繰り返した結果、ネザサがあまり生育しなくなり、本来の休憩所広場としてハイカーの皆さんに利用していただけるようになりました(写真右)

▶「森の世話人」活動
「六甲山系グリーンベルト整備事業」の一環として、企業や市民団体が森林の維持・整備や植樹等をボランティアで実施する活動です。

▶六甲山系グリーンベルト整備事業
平成7年兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)により、六甲山地では山の斜面崩壊や地割れが多数発生しました。また、地震でゆるんだ地盤は、今後の大雨などによる土砂災害の危険性があると考えられており、六甲山地を一連の樹林帯(グリーンベルト)として守り育て、土砂災害に対する安全性を高めるとともに、緑豊かな都市環境、景観などをつくり出そうという事業で、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所が推進しています。

▶Kocoroちゃんの森
「森の世話人」活動では、活動地の森林に対し命名することができます。そこで、コベルシステムの自然環境保護活動のイメージキャラクター「Kocoroちゃん」を森の名前に命名しました。



Kocoroちゃん

■コベルシステムの自然環境保護活動のイメージキャラクター
※2007年、第12回アニメーション神戸 協賛事業として公募

- ① IT分野を中心に、人材育成、地域産業振興等を支援します
- ② 地域での自然環境保護に自ら取り組むことにより、事業を超えた社会参画を体感します

植樹会

コベルシステムでは、2007年に設立20周年を記念し、有馬温泉癒しの森と兵庫県立六甲山自然保護センターで記念植樹を行いました。社員25名と来賓の方々で力を合わせ、カスミザクラ、シチダンカ、ヤマアジサイ、コバノミツバツツジ、ヤマツツジ、モチツツジ、ペニドウダンなどを植えました。なお、ヤマアジサイは六甲山に自生する種類を許可を得て採取し、社員有志が挿し木して4~5か月間丹精こめて育てたものです。その後、初夏にヤマアジサイを採取し、晩秋に有馬温泉癒しの森に植え戻す植樹会を、毎年実施してきました。

2012年は、ヤマアジサイの採取を初夏ではなく梅雨入り直後に実施し、植樹の時期も少し早めることで、それまでより多くのヤマアジサイの苗木を育てることができました。

また、2012年は、兵庫県立六甲山自然保護センターでも、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」のご協力で神戸市立森林植物園から分けていただいたコバノミツバツツジ5株の補植を行いました。



■有馬温泉癒しの森の植樹地にて



■兵庫県立六甲山自然保護センターに補植したコバノミツバツツジ

その他の地域貢献・社会貢献

▶アビリンピック
2003年から全国障害者技能競技大会(アビリンピック)を支援しており、AutoCAD種目におけるソフトウェアの貸し出し・導入支援や大会当日のサポート等を実施しています。

▶スポーツ振興協賛
NPO法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構(SCIX)に協賛しています。

▶地域イベントへの協賛
寄付や協賛を通じ、地域の伝統や文化の維持に貢献しています。
・神戸花物語 ・神戸ルミナリエ
・神戸まつり ・神戸ITフェスティバル

▶ペットボトルキャップ収集
世界の子供にワクチンを送る「エコキャップ運動」に参加しています。

「コベルシステムならではの社会貢献」の検討

コベルシステムCSR推進委員会では、2012年に社会貢献検討ワーキンググループを設置し、コベルシステムならではの社会貢献活動の実現に向けた検討を行いました。当社は、いくつかの社会貢献活動を実施してきましたが、それを「コベルシステムならではの」という観点で再度見直しを行いました。具体的には、以下の4つの視点で検討を行いました。

- 1. 社員の満足度の向上**
社員が、良い会社に勤めているという満足感を持つことができる。社員の仕事以外の人間関係が広がるとともに、多様な価値感を持つことができる。
- 2. 人材育成**
社員自らが多様な価値感・ステークホルダーを持つNPO活動に参加することで、社員のリーダーシップを育成することができる。特に、当社に最も必要とされるPM人材、グローバル人材の育成に寄与することができる。

- 3. コベルシステムの特徴の活用**
兵庫県・神戸市に本社を置くIT企業であり、インフラ事業に強みを持つ当社の特長を生かすことができる。当社の豊富なPM、IT人材を活かすことができる。
- 4. 地域の活性化**
コベルシステムが本社を置く兵庫県・神戸市の活性化につながる。

最終的に、ワーキンググループからは、
①兵庫・神戸のNPOへのITセキュリティ支援
②兵庫・神戸のNPOへの社員派遣
③福祉工場の生産品活用
④社員への社会貢献・ボランティア活動情報提供
の4つの活動が提言されました。2013年からは、これらの中からひとつでも実現できるように、具体化に向けたトライアルを進めていく計画です。

事業活動の中での環境保護活動

オフィス環境の負荷低減

日常業務の中で、電力使用量、紙の使用量を削減し、資源のリサイクルや再利用を推進しています。

分野	活動内容
サマーエコスタイル運動	<ul style="list-style-type: none"> コベルコシステムの事業所で勤務する社員に対して、夏季のノーネクタイやクールビズを奨励し、冷房用電力使用量の削減を図っています。
移動エネルギーの削減配慮	<ul style="list-style-type: none"> TV会議システムやe-ラーニングを利用し、出張や集合研修を抑制し、それに伴う移動を減らすことで、CO₂排出量の削減に貢献しています。 コベルコシステムでは基本的に自家用車での通勤を認めていませんが、例外的に自家用車での通勤を認めている一部事業所においても、マイカー通勤自粛日を設け、CO₂排出量の削減に努めています。
3R(Reduce, Reuse, Recycle) 促進	<ul style="list-style-type: none"> 夏季の冷房温度の28℃設定、冬季の暖房温度の20℃設定を徹底させることで、冷暖房用電力使用量の削減に努めています。 オフィスの照明の一部を法令上の照度を下回らない程度に減光することで、照明用電力使用量の削減を図っています。 会議室未使用時の電源オフや、長時間業務用PCを使用しない場合の電源オフの励行、一定時間PCを使用していない場合の自動電源オフ設定等を励行し、電力使用量の低減に努めています。 社内文書のペーパーレス化を推進し、印刷が必要な場合も両面印刷や縮小印刷等を励行し、紙の使用量の削減に努めています。 複数のサーバーに分散していた社内サーバーを少数のサーバーに統合し、電力使用量の削減を図っています。 社内便の封筒やクリアファイルなど、事務用品の再利用を励行しています。 携帯型機器等への充電型乾電池の使用を徹底することで、資源の削減に努めています。 紙やプラスチックを廃棄する際の分別を徹底し、資源のリサイクルに努めています。

グリーンITソリューション

ITそのものの環境負荷低減を図る「ITの省エネ」や、ITを利用して省資源を図る「ITによる省エネ」等のソリューションを提供します。

分野	主なソリューション
「ITの省エネ」に関するソリューション	<ul style="list-style-type: none"> 省電力型IT機器の販売および移行支援のご提供 省電力型サーバー等のIT機器の販売や、現行システムを省電力型サーバーに移行させることによる、省エネや省スペースを実現します。 サーバー統合支援のご提供 複数のサーバーに分散したシステムを少数のサーバーに統合し、省エネ、省スペース、省力化を実現します。 仮想化技術導入支援のご提供 サーバーの稼働率が平均20%程度であることに着目し、空いているサーバーのリソースを他のアプリケーションなどで利用可能とすることで、サーバーの増設を抑制します。 ITモダナイゼーションのご提供 レガシーな基幹システムを上記のソリューション等を活用してオープン系のシステムに置き換えることにより、省エネ、省スペース、省力化を実現します。
「ITによる省エネ」に関するソリューション	<ul style="list-style-type: none"> 省紙対策ソリューションのご提供 帳票データを電子的に参照できるシステムや電子承認システムの導入支援 TV会議システムソリューションのご提供 出張や移動時間の削減を図るTV会議システムの導入支援 その他のお客様の環境対策をご支援するソリューションのご提供の例 <ul style="list-style-type: none"> 廃棄物管理システムの構築支援 物流管理システムの構築支援 置場管理システムの構築支援

編集後記

本レポートを最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。
本年度のレポートはそれぞれの分野の担当者が、できる限りわかりやすく伝えることを心がけて執筆を担当しました。加えて、記載内容をより理解いただくため、図や写真を多用し、関わった社員の声を数多く記載させていただきました。
コベルコシステムのCSR活動の理解が深まり、親近感を覚えていただくことができましたら幸いです。今後もさらにCSR活動を強化していきながら、ステークホルダーの皆様と“ともに”の姿勢を貫いてまいります。

なお、添付のアンケートまたはWebのCSRアンケートの入力画面から忌憚のないご意見をいただきましたら幸いです。

Webアンケート入力画面：<https://www.kobelcosys.co.jp/csr/questionnaire/form.php>

本レポートの内容に関するご意見、お問い合わせは下記で承っています。
コベルコシステム株式会社 経営企画部 CS・CSR推進グループ
〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2-7 シマブンビル 10F
TEL：078-261-6001 FAX：078-261-7520

取得済の認証・認定



登録範囲：
ハウジングサービス、セキュリティ運用管理
サービス及びソリューションサービスにかかわる
情報資産のセキュリティを保護するための情報
セキュリティマネジメントシステム

ISO9001適用部署：
営業本部
ERPソリューション本部
インダストリーソリューション本部
ICT本部
登録活動範囲：
製造業、流通業及びその他の産業向け顧客要求事項
に基づくソフトウェアの設計・開発・製造及び付帯サービス
(教育、移行支援及び瑕疵対応)